基本計画 重点プログラム 市民アンケート報告書

平成 27 年 (2015 年) 9 月 横 須 賀 市

はじめに

横須賀市では、平成10年に策定した横須賀市総合計画に基づき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。

平成23年4月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画がスタートしています。

この基本計画では、計画期間中に、特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的とした「重点プログラム」を位置付けています。

今回、重点プログラムの目的、各プログラムの取り組みの方向性に対する市民の皆さまの 実感を伺うアンケート調査を実施しました。(15歳以上の2,000人の方が対象)本調査は、 平成23年度から継続して実施しているものです。

調査で得られた結果は、重点政策・施策評価や政策展開を検討する上での基礎資料として、 十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには、厚くお礼申し上げます。

平成27年(2015年)9月

横須賀市都市政策研究所

報告書の見方

- 1. 基本計画重点プログラム市民アンケートでは、<u>各重点プログラムが実現を目指す</u> 都市の姿、その都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、実感を尋ねている。(P86 アンケート調査票参照)
- (1) 現在について

重点プログラムの取り組みの方向性で掲げる状態にあるか

- ⇒「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」 「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定
- (2)以前との比較

重点プログラムの取り組みの方向性に向かって

- ⇒「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」「③変わっていない」 「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、 「⑥わからない」を設定
- 2. アンケートの設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI(ディフュージョンインデックス 景気動向指数/拡散指数)の考え方を利用している。 プラスの回答ポイント - マイナスの回答ポイント = DI として記述している。 ※DI とは、「良い/悪い」「上昇/下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。 マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。
- 3. 集計結果では、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。
 - ・現在について 「①思う」+「② やや思う」
 - ・以前との比較 「①よくなっている」+「②どちらかというとよくなっている」
 - ⇒プラスの回答ポイント
 - ・現在について 「④ あまり思わない」+「⑤思わない」
 - ・以前との比較 「④どちらかというと悪くなっている」+「⑤悪くなっている」
 - ⇒マイナスの回答ポイント
 - ・DI がプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある
 - DI がマイナス ··· アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

4. 調査結果では、各項目の平成25年度から27年度までの直近3カ年のDIの比較を行い、その数値の変化について以下の基準で記述している。また、参考として平成23年度の調査開始時から27年度へのDIの推移を掲載している。

各年度間の差	状況
3ポイント未満	変化なし
3~5ポイント未満	大きな変化なし
5~10ポイント未満	上昇 / 低下
10 ポイント以上	大幅に上昇 / 大幅に低下

目 次

I	調査目	的および実施方法等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
П	集計新	5. ープログラム別の状況 ー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5.
	重点プロ	グラム1「新しい芽を育む」
	~子と	もを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成~
	1	取り組みの方向性の傾向 ・・・・・・・ 5
	2	回答理由分類 · · · · · · 9
	重点プロ	!グラム2「命を守る」
	~誰も	が活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり~
	1	取り組みの方向性の傾向 ・・・・・・・・ 15
	2	回答理由分類 · · · · · · · · · 19
	重点プロ	! グラム3「環境を守る」
	~人と	: 自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり~
	1	取り組みの方向性の傾向 ・・・・・・・・・ 25
	2	回答理由分類 · · · · · · · · · 29
	重点プロ	!グラム4「にぎわいを生む」
	~地域	域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり~
	1	取り組みの方向性の傾向 ・・・・・・・・・ 33
	2	回答理由分類 · · · · · · · · · 37
	重点プロ	グラム5「地域力を育む」
	~地域	と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティー機能の強化~
	1	取り組みの方向性の傾向 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
	2	回答理由分類 · · · · · · · · 47
ш	持続可	「能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)について ······ 51
	1	持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)を備えているまちの傾向・・・ 51
	2	回答理由分類 · · · · · · · 54

V	持続す	可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)
	— ₽	憂先して取り組むべき政策についてー ・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
	1	優先して取り組むべき政策の傾向 ・・・・・・・・・・・ 57
	2	優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感 ・・・ 59
	3	自由記述回答 · · · · · · · 60
v	横須賀	『市の住み良さや定住意識について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	1	横須賀市の住み良さについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・63
	2	横須賀市への定住意識について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	3	回答理由分類 · · · · · · · 69
VI	健康つ	づくりについて ····· 71
	1	健康状態の把握手段について ・・・・・・・・・・・ 71
	2	ラジオ体操の実施の認知度について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
	3	ラジオ体操への参加について ・・・・・・・・・・・・ 73
	4	ラジオ体操に参加していない理由について ・・・・・・・・ 74
	5	習慣的な運動の実施状況について 75
VII	地産均	也消について
	1	農水産物の産地に対する意識について ・・・・・・・・・・ 77
	2	横須賀市産の農水産物の選択について ・・・・・・・・・ 78
MI	横須賀	『製鉄所(造船所)について ······79
	1	横須賀製鉄所の認知度について ・・・・・・・・・・ 79
	2	横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について80
	3	富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度について ・・・・・・・ 81
基本	下的な原	属性(F1~F6) ······83

I 調査目的および実施方法等

1 調査目的

- (1) 横須賀市基本計画(2011~2021) に掲げた重点プログラムの目的である「持続可能な発展に必要な都市力(都市の魅力)」の向上や、各プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、市民の実感を把握し、今後の政策・施策の改善に活用する。
- (2) 重点プログラムを効果的に推進するため、プログラムを構成する事業を検証し、今後の方向性を検討する重点政策・施策評価に活用する。

2 調査項目

問1~10 「都市の姿を実現するための取り組みの方向性」について

問11 「持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)」について

問 12 「優先して取り組むべき政策」について

問13 「横須賀市の住み良さ」について

問14~16 「横須賀市への定住意識」について

問 17~21 「健康づくり」について

問 22・23 「地産地消」について

問 24~26 「横須賀製鉄所(造船所)」について

<基本的な属性>

F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 /

F 5 世帯の状況 / F 6 居住年数

3 調査項目と重点プログラムの対応関係

アンケートの調査項目のうち、問1~問10は、各重点プログラムが目指す都市の姿を 実現するための取り組みの方向性に対応した設問である。

また、問 11 は、重点プログラムの目的である「持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)」についての設問で、いずれも、市民の実感を尋ねる内容となっている。

調査項目と基本計画重点プログラムの対応関係

重点プログラム			取り組みの方向性		
1	 新しい芽を育む	1 – 1	子どもを産み育てやすいまちづくり	問1	
1	利しい方で同じ	1 - 2	人間性豊かな子どもの育成	問 2	
2	A た 中 フ	2-1	誰もが活躍できるまちづくり	問3	
2 1	命を守る	2 - 2	安全で安心なまちづくり	問 4	
3	r四.i立ナ./ヤッ	3 – 1	人と自然が共生するまちづくり	問 5	
3	環境を守る	3 - 2	地球環境に貢献するまちづくり	問 6	
4	17 42-11, 7-4-4-	4-1	地域経済の活性化と雇用の創出	問 7	
4 にぎわいを生む		4 - 2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	問8	
5	地域力を育む	5 – 1	地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	問 9	
Э	地域力を目む	5 - 2	地域を支えるコミュニティー機能の強化	問 10	

4 調査対象および回収数

調査対象:横須賀市に在住の15歳以上の市民 2,000人 (平成27年4月1日現在;住民基本台帳から無作為抽出)

回収数	回収率	昨年度比
718 件	35.9%	▲0.7ポイント

5 実施方法

郵送による発送および回収

アンケートの実施に際しては、昨年度の調査同様、基本計画に掲げた重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封した。

【昨年度の調査との変更点】

(1) 設問の変更

横須賀市の魅力、イメージや横須賀市への愛着を尋ねる設問について、過年度の調査結果において経年の変化があまり見られないことから、毎年度ではなく一定の間隔を空けて設問することとし、今年度の設問を見送った。

(2) 設問の追加

平成 26 年度から第2次実施計画がスタートしたことに伴い、第2次実施計画で掲げた最重点施策に関連する「ラジオ体操」の設問を追加した。(P97 調査票参照)また、今年度、横須賀製鉄所(造船所)が開設 150 周年を迎えるに伴い、平成 26 年6月に世界遺産登録された富岡製糸場(群馬県)とのかかわりについての認知度を把握する設問を追加した。

6 実施時期

平成 27 年 (2015 年) 4月 22 日 ~ 5月 11 日 *発送日-投函締切日

7 調査の企画・分析

横須賀市都市政策研究所で実施

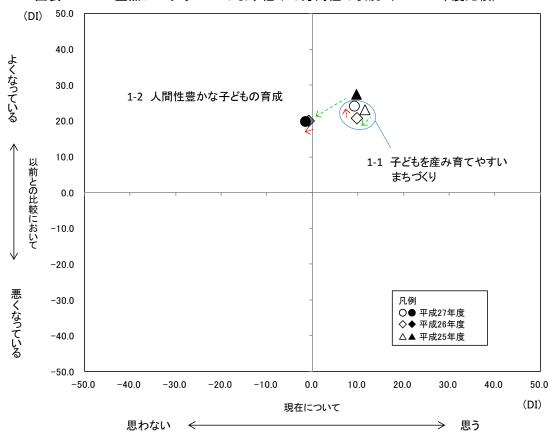


Ⅱ 集計結果 -プログラム別の状況-

重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ~子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成~

1 取り組みの方向性の傾向

図表 II - 1 重点プログラム 1 の取り組みの方向性の状況(H27-25 年度比較)



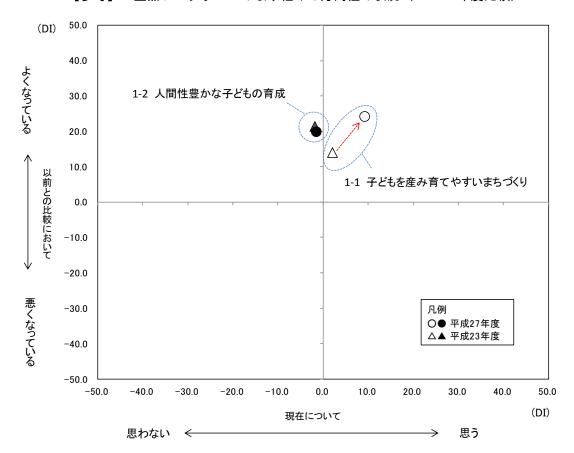
【現在	

196 ETC 20 C			(ポイン					(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	481	40.5	28.1	31.4	9.1	▲ 0.6	
(1-1)	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	▲ 1.8	
子どもを産み育てやすいまちづくり	25年度	540	41.3	28.9	29.8	11.5	5.6	7.1
	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9	
	23年度	597	38.2	25.6	36.2	2.0	_	
	27年度	439	32.8	32.8	34.4	▲ 1.6	▲ 0.7	
(1-2)	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	▲ 10.5	
人間性豊かな子どもの育成	25年度	489	39.7	30.3	30.1	9.6	9.9	0.3
	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6	
	23年度	555	31.4	35.3	33.3	▲ 1.9	_	

【以前との比較】

【以削との比較】								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①よくなっている+ ②どちらかというと よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかというと 悪くなっている+ ⑤悪くなっている(b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	413	41.7	40.9	17.4	24.3	3.4	
(1-1)	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	▲ 2.4	
子どもを産み育てやすいまちづくり	25年度	434	41.0	41.2	17.7	23.3	5.5	10.2
	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7]
	23年度	524	37.6	38.9	23.5	14.1	_	
	27年度	359	32.8	54.3	12.8	20.0	▲ 0.2	
(1-2)	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	▲ 7.4	
人間性豊かな子どもの育成	25年度	406	39.2	49.3	11.6	27.6	▲ 0.4	▲ 1.5
	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5	
	23年度	476	35.3	50.8	13.8	21.5	_	

【参考】 重点プログラム 1 の取り組みの方向性の状況 (H27-23 年度比較)



(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」ともにプラスで、前年度調査からの大きな変化も見られなかった。平成25年度以降ほぼ横ばいで推移しており、特に「以前との比較」では約25ポイントの比較的高い値となっていることから、実感が得られている状態といえる。この取り組みの方向性は、政策の優先度が最も高い項目である。(P57参照)

現在について		以前との比較	
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)
11.5 → 9.7 → 9.1	▲ 0.6 変化なし	23.3 → 20.9 → 24.3	3.4 大きな 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「自然環境の充実」が最も多く挙げられている。次いで多く挙げられた「子育て支援 施策や助成等の充実」では、小児医療費助成(小児医療費助成対象年齢の拡大)につ いての記載が多く見られた。ほかに、子どもを預ける場の充実、公園の充実などが挙 げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

産科、小児科、総合病院や健診などの「医療体制が不十分(医師数含む)」が突出して多く、この傾向は前年度調査と同様である。ほかに、出産・子育てにかかる費用負担や助成に対する不足感が多く挙げられている。中でも、小児医療費助成に対する不足感が多く挙げられ、上述のように肯定的な回答理由としても比較的多く挙がっていることから実感に差が見られる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「子育て支援施策や助成の充実」が突出して多く挙げられ、ここでも、小児医療費助成についての記載が多く見られた。次いで「子どもを預ける場の充実」が多く挙げられたが、「現在について」の否定的な回答理由としても3番目に多く挙げられており(P10参照)、実感としてはまだ不足感がうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、産科、小児科、総合病院などの「医療体制が不十分」が多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP9参照)

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

今回調査の DI は、「現在について」がマイナスで、大幅に低下した前年度調査からの変化も見られなかった。「以前との比較」では横ばいの状況だが、約 20 ポイントのプラス値で、一応の実感は保たれているとみることもできる。

現在について		以前との比較			
DIの推移	年度差と状況	DIの推移	年度差と状況		
(25年度 → 26年度 → 27年度)	(対26年度)	(25年度 → 26年度 → 27年度)	(対26年度)		
$9.6 \rightarrow \blacktriangle 0.9 \rightarrow \blacktriangle 1.6$	▲ 0.7	$27.6 \rightarrow 20.2 \rightarrow 20.0$	▲ 0.2		
$9.6 \rightarrow \blacktriangle 0.9 \rightarrow \blacktriangle 1.6$	変化なし	$27.6 \rightarrow 20.2 \rightarrow 20.0$	変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

市の施策の充実について最も多く挙げられており、「学力向上」や「国際コミュニケーション能力育成」の記載が見られた。次いで、各学校の取り組みや行事、授業内容、方針などの「学校教育の充実」や、「子どもたちの様子を見て」として、回答者の身近な子どもたちとの交流の中での実感も挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

市の施策に対する不足感が最も多く、「学力」「いじめ・不登校」「中学校給食」などの記載が見られた。次いで、「教育環境が不十分」「施策の具体的な内容が見えない」などが多く挙げられ、これらの傾向は前年度調査からほとんど変化は見られない。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

回答数は多くないが、市の施策の充実が多く挙げられ、前年度調査と比較して「不登校・いじめ対策」「横須賀総合高等学校の改革」などの記載が見られた。ほかに、「現在について」と同様に、子どもたちの様子からの実感も挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「子どもたちの様子を見て」「人間関係の希薄化」などが挙げられ、 少子化やコミュニケーションの変容などによる他者との関わりあいについて触れてい る回答が見られた。また、道徳教育や大人の様子、家庭におけるしつけなど、子ども たちの変化、子どもを取り巻く環境の変化を感じられている様子がうかがえた。

(回答理由分類については P12 参照)

2 回答理由分類

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※()は内数

地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性84.4教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い84.4国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)治安がよい、安全52.7ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1	_「①忘り」「②やや忘り」	<i>^</i> •	() パムドリ教
子育て支援施策や助成等の充実 小児医療費助成 子どもを預ける場の充実15.4子どもを預ける場の充実17幼稚園・保育園(認定こども園)の充実、待機児童の減少 学童クラブの充実 公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実 環境がよい、住みやすい、子育でで不便を感じない、自宅近くで用が済む 地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性 教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 国際コミュニケーション能力育成、ALT 治安がよい、安全 ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い オランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い 相関の人の子育でを見て 都心に近い、交通利便性が高い 病院など医療体制の充実42.2都心に近い、交通利便性が高い 病院など医療体制の充実31.6病院など医療体制の充実221.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
小児医療費助成(17)子どもを預ける場の充実17幼稚園・保育園(認定こども園)の充実、待機児童の減少 学童クラブの充実(2)公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実 公園の充実12公園の充実(9)環境がよい、住みやすい、子育で不便を感じない、自宅近くで用が済む9地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性84、4教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 国際コミュニケーション能力育成、ALT 治安がよい、安全8ボランティアや地域の子育で支援体制の充実、地域力が高い がの子育でを見て4和心に近い、交通利便性が高い 病院など医療体制の充実31.6病院など医療体制の充実本の他、意見等14不の他、意見等14不の他、意見等14不の他、意見等13	自然が多い、海・山がある、気候が温暖など自然環境の充実	53	29. 1
小児医療費助成	子育て支援施策や助成等の充実	28	15.4
幼稚園・保育園 (認定こども園) の充実、待機児童の減少 学童クラブの充実(14) 学童クラブの充実9.3公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実 公園の充実12 公園の充実6.6環境がよい、住みやすい、子育で不便を感じない、自宅近くで用が済む 地域性・市民性 (のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性 教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 国際コミュニケーション能力育成、ALT 治安がよい、安全 ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い 相 のの子育でを見て 都心に近い、交通利便性が高い 病院など医療体制の充実 他都市と比較してよい その他、意見等 否定的な回答理由14 7.7 	小児医療費助成	(17)	10. 1
学童クラブの充実(2)公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実12公園の充実(9)環境がよい、住みやすい、子育てで不便を感じない、自宅近くで用が済む9地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性8教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い8国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)治安がよい、安全5ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42、2間囲の人の子育てを見て4都心に近い、交通利便性が高い3病院など医療体制の充実2他都市と比較してよい2その他、意見等14否定的な回答理由137、1	子どもを預ける場の充実	17	
公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実 12 公園の充実 (9) 環境がよい、住みやすい、子育でで不便を感じない、自宅近くで用が済む 9 4.9 地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性 8 4.4 教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 8 4.4 国際コミュニケーション能力育成、ALT (2) 2.7 治安がよい、安全 5 2.7 ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い 4 2.2 周囲の人の子育でを見て 4 2.2 都心に近い、交通利便性が高い 3 1.6 病院など医療体制の充実 2 1.1 その他、意見等 14 7.7 否定的な回答理由 13 7.1			9. 3
公園の充実 (9) 環境がよい、住みやすい、子育てで不便を感じない、自宅近くで用が済む 9 地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性 8 教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 8 国際コミュニケーション能力育成、ALT (2) 治安がよい、安全 5 ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い 4 周囲の人の子育でを見て 4 都心に近い、交通利便性が高い 3 病院など医療体制の充実 2 他都市と比較してよい 2 その他、意見等 14 否定的な回答理由 13	<u> 学童クラブの充実</u>	(2)	
公園の充実(9)環境がよい、住みやすい、子育で不便を感じない、自宅近くで用が済む94.9地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性84.4教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い84.4国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)4治安がよい、安全52.7ボランティアや地域の子育で支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育でを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	公園、みんなの家、支援センターなど子育て関連施設や遊び場の充実		6. 6
地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性 8 4.4 教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い 8 4.4 国際コミュニケーション能力育成、ALT (2) 2.7 治安がよい、安全 5 2.7 ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い 4 2.2 周囲の人の子育てを見て 4 2.2 都心に近い、交通利便性が高い 3 1.6 病院など医療体制の充実 2 1.1 他都市と比較してよい 2 1.1 その他、意見等 14 7.7 否定的な回答理由 13 7.1	公園の充実	(9)	
教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い84.4国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)治安がよい、安全52.7ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	環境がよい、住みやすい、子育てで不便を感じない、自宅近くで用が済む	9	4. 9
国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)治安がよい、安全52.7ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性	8	4.4
国際コミュニケーション能力育成、ALT(2)治安がよい、安全52.7ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	教育(学校・塾)・文化環境の充実、学校が近い	8	4 4
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い42.2周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	国際コミュニケーション能力育成、ALT	(2)	1. 1
周囲の人の子育てを見て42.2都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	治安がよい、安全	5	2. 7
都心に近い、交通利便性が高い31.6病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い	4	2. 2
病院など医療体制の充実21.1他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	周囲の人の子育てを見て	4	2. 2
他都市と比較してよい21.1その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	都心に近い、交通利便性が高い	3	1.6
その他、意見等147.7否定的な回答理由137.1	病院など医療体制の充実	2	1. 1
否定的な回答理由 13 7.1	他都市と比較してよい	2	1. 1
	その他、意見等	14	7.7
182 100.0	否定的な回答理由	13	7. 1
		182	100. 0

_「④あまり思わない」「⑤思わない」	*	()は内数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分(医師数を含む)	42	
産科が不十分	(31)	25.0
小児科が不十分	(6)	
医療、出産、保育、教育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	22	13. 1
小児医療費助成	(15)	
子どもを預ける場が不十分	19	
幼稚園・保育園が不十分、待機児童数が多い	(14)	11.3
学童クラブが不十分	(2)	
公園や遊び場、子育て関連施設の不足、規制が多い	13	7. 7
施策が不十分、特色がない	11	6. 5
中学校給食がない	(5)	0.0
他都市との比較によるサービスの不足、遅れている	11	6. 5
教育環境が不十分(学校・塾・施設)、大学が少ない、教育の質がよくない	7	4.2
子どもが少ない、見かけない	6	3. 6
雇用が少ない、市内で働いて子育てができない	5	3.0
道路・歩道が狭い、段差がある、通学路整備が不十分	4	2. 4
治安が悪い	4	2.4
公共交通の利便性が低い	3	1.8
地域の人間関係が希薄、サポートが得られない	3	1.8
施策・支援が見えない	3	1.8
PR、情報発信が少ない	2	1.2
人口減少、若年層の減少	2	1.2
住みにくい	2	1.2
その他、意見等	8	4.8
肯定的な回答理由	1	0.6

168

100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

*	()	は	内	数
				-	-

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成の充実	49	38. 3
小児医療費助成	(37)	30. 3
子どもを預ける場の充実	16	
幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少	(7)	12.5
学童クラブの充実	(7)	
産科、病院など医療体制の充実	7	5. 5
公園、コミュニティ広場など子育て関連施設や遊び場の充実	5	3. 9
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実	5	3.9
子どもたちの様子を見て (あいさつなど)	4	3. 1
子どもを見かける、若い世帯の増加	3	2.3
商業施設の充実	3	2.3
人から聞いて、事業内容を見て	3	2.3
努力が見える	3	2.3
子どもに対する大人の意識の変化(目を向けている)	3	2.3
自身の子育て時期と比較して	3	2.3
治安がよい、安全	2	1.6
その他、意見等	11	8.6
否定的な回答理由	11	8.6
	128	100.0

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分	16	22.9
産科が不十分	(11)	22.3
公園や子育て関連施設、遊び場の不足、未整備	7	10.0
子どもが少ない、見かけない	6	8. 6
治安が悪い、安全ではない、外国人の増加	6	8. 6
人口減少、転出、若年層の流出	4	5. 7
雇用が少ない、働きながら子育てがしにくい	3	4. 3
子どもを預ける場が少ない、幼稚園・保育園の不足	3	4. 3
昔の方がよかった、以前の方が便利だった	3	4. 3
教育環境が不十分 (学校が遠い)	2	2. 9
自然破壊、自然の減少	2	2. 9
子どもの減少に伴う地域活動の衰退	2	2.9
空き家の増加	2	2.9
親の様子を見て	2	2.9
生活の悪化	2	2.9
その他、意見等	10	14. 3
	70	100.0

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

_「①思う」「②やや思う」	*	() は内数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	22	
学力向上	(6)	21.8
国際コミュニケーション能力育成(ALT)	(6)	
いじめ・不登校対策	(2)	
学校教育の充実、授業内容・教育方針がよい	14	13. 9
子どもたちの様子を見て	10	
元気、のびのびしている、素直	(4)	9. 9
あいさつをしてくれる	(3)	
自然環境がよい	10	9.9
子育て・社会教育施設の充実、公園の整備	5	5. 0
人から聞いて、事業内容を見て	5	5.0
外国人との交流ができる	4	4.0
イベントの開催	4	4.0
地域の子育て・教育支援体制の充実、学校と地域の連携	3	3.0
環境がよい、環境整備が進んでいる	2	2.0
雰囲気が穏やか	2	2.0
情報発信	2	2.0
保育所の充実、統合保育	2	2.0
その他、意見等	12	11. 9
否定的な回答理由	4	4.0
	101	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策が不十分	17	
学力が低い	(4)	15.0
いじめ・不登校がある	(3)	15. 2
中学校給食がない	(3)	
教育環境が不十分	13	
教員の資質がよくない	(6)	11.6
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	11	9.8
子どもたちの様子を見て	8	7. 1
大人・親がよくない、しつけができていない	8	7. 1
公園などの遊び場が不十分、子育て・社会教育施設が不十分、人材不足	7	6. 3
大人と子どもの交流がない、人間関係の希薄化	6	5. 4
人口減少、若年層の流出、若年層が増えない	4	3.6
子育て世帯への支援が不十分	3	2.7
保育園、学童クラブが不十分	3	2.7
子どもを見かけない、子ども同士で遊ばない	3	2.7
環境を生かせていない (自然、基地など)	3	2. 7
施策に特色がない	3	2.7
施策の考え方・方向性に疑問がある	2	1.8
変化を感じない	2	1.8
その他、意見等	19	17.0
	112	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

*	()	は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	19	
不登校・いじめ対策	(5)	
国際コミュニケーション能力育成(ALT)	(3)	29. 2
キャリア教育	(2)	
横須賀総合高等学校の改革	(2)	
子どもたちの様子を見て	5	7. 7
学校と地域の連携、ボランティアや地域力の活用	4	6. 2
公園など遊び場の充実、社会教育施設の充実	4	6. 2
学校教育の充実、学校施設設備の充実	4	6. 2
学校、教員が熱心	3	4. 6
変化が見える、改善されている	3	4. 6
道路・歩道の整備	2	3. 1
努力が見える	2	3. 1
事業内容を見て	2	3. 1
その他、意見等	16	24. 6
否定的な回答理由	1	1. 5
	65	100.0

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

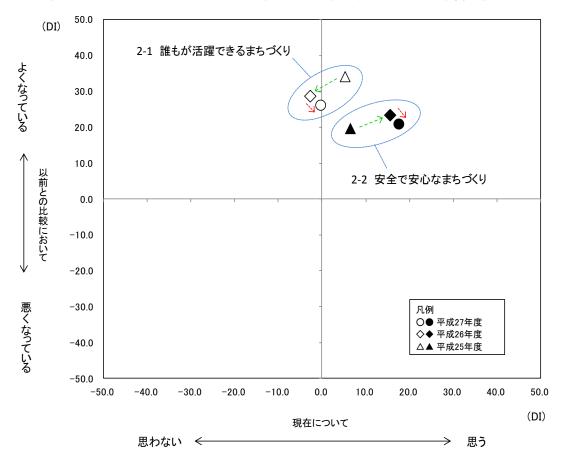
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子どもたちの様子を見て	6	15. 8
スマートフォン、ゲーム依存	(2)	10.0
大人と子どもの交流がない、人間関係の希薄化	4	10. 5
公園などの遊び場が不十分	4	10. 5
学力偏重、道徳教育が少ない	3	7. 9
大人・親がよくない、しつけができていない	3	7. 9
昔の方がよかった、学校が悪化している	3	7. 9
施策の考え方・方向性に疑問がある	2	5. 3
子どもが外で遊ぶ姿を見かけない	2	5. 3
その他、意見等	11	28. 9
	38	100.0

_	14	_
---	----	---

重点プログラム2 『命を守る』 ~誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり~

1 取り組みの方向性の傾向

図表 II - 2 重点プログラム 2 の取り組みの方向性の状況(H27-25 年度比較)



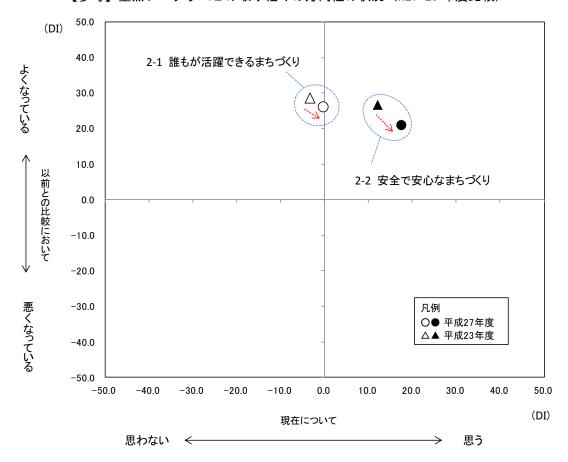
【現在	

I SULLICE OF CA								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	577	34.3	31.0	34.7	▲ 0.4	2.4	
(2-1)	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	▲ 8.0	
誰もが活躍できるまちづくり	25年度	607	38.1	29.0	32.9	5.2	7.8	3.0
	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8	
	23年度	651	35.5	25.7	38.9	▲ 3.4	_	
	27年度	675	45.6	26.2	28.1	17.5	2.0	
(2-2)	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	9.1	
安全で安心なまちづくり	25年度	703	40.5	25.3	34.1	6.4	3.8	5.4
	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5]
	23年度	711	44.8	22.5	32.7	12.1	_	

【以前との比較】

「以前との比較」								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①よくなっている+ ②どちらかというと よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかというと 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	465	36.6	53.1	10.4	26.2	▲ 2.6	
(2-1)	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	▲ 5.4	
誰もが活躍できるまちづくり	25年度	509	44.4	45.4	10.2	34.2	2.5	▲ 2.5
	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0	
	23年度	557	39.8	49.0	11.1	28.7	_	
	27年度	586	35.8	49.3	14.8	21.0	▲ 2.5	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	3.8	
	25年度	619	37.6	44.4	17.9	19.7	▲ 0.1	▲ 5.7
	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9	
	23年度	645	41.0	44.7	14.3	26.7	_	

【参考】重点プログラム2の取り組みの方向性の状況(H27-23年度比較)



(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」でマイナスで、前年度調査からの変化も見られなかった。「以前との比較」では3カ年で8ポイント減少しているが、25 ポイントを超えるプラス値で推移しており、実感は保たれているとみることもできる。

現在について		以前との比較			
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度) 年度差と状況 (対26年度)		DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)		
5.2 → ▲ 2.8 → ▲ 0.4	2.4	34.2 → 28.8 → 26.2	▲ 2.6		
J.Z / A Z.0 / A 0.4	変化なし	34.Z / 20.0 / 20.Z	変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備」として市の施策の充実が 多く挙げられている。中でも、前年度調査と比較して健康増進施策についての記載が 多く見られた。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「活躍の場がない、活躍できていない、活躍しているのは一部の人のみ」が最も多く 挙げられている。次いで、歩行のしにくさや交通利便性の低さが挙げられている。ま た、「雇用・企業の減少」「雇用の偏り」など、「誰もが活躍できる」という言葉から想 起される状況として「雇用の安定」が大きな要素となっている様子がうかがえる。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「現在について」と同様に、市の施策の充実が最も多く挙げられている。次いで、「バリアフリー対策の充実」や「施設の充実」が多く挙げられ、まちなかで目に触れる機会が多い取り組みに対する実感がうかがえる。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「雇用・企業の減少」が最も多い。ほかに、日常の他者とのかかわりの中での実感や、「商店街の衰退、商業施設の減少」などが挙げられている。

(回答理由分類については P19 参照)

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」ともに 20 ポイント前後のプラス値となった。特に、「現在について」では3カ年で約 11 ポイント増加しており、実感は得られてきている状態といえる。

現在について		以前との比較			
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)		
6.4 → 15.5 → 17.5	2.0	19.7 → 23.5 → 21.0	▲ 2.5		
0.4 / 13.5 / 17.5	変化なし	13.7 / 23.3 / 21.0	変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「犯罪・事件の減少、治安がよい」が多く挙げられ、突出している。ほかに、「不安 や危険を感じない、安心して生活できている、暮らしやすい」として、住環境のよさ や日常生活における安心感が多く挙げられている。この傾向は前年度調査と同様であ る。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる」が多く挙げられたほか、「通学路・歩道・道路の整備が不十分、交通量が多い、交通機関の遮断」などの交通面や「米軍・自衛隊基地、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ」など基地等の施設や放射能に関すること、また有事の際の不安などが多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「防災・災害対策の充実」が最も多く挙げられ、対策状況が目に見えることからの安心感がうかがえる。ほかに、「犯罪・事件の減少、治安がよい」「交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、通学路・道路整備」などが多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる」など、この 取り組みの方向性全体の傾向として、体感治安に関する理由が多く挙げられている。 これは前年度調査と同様の傾向である。

(回答理由分類については P22 参照)

2 回答理由分類

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている7介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実7ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある6検診事業、病院など医療体制の充実5イベント・講座の開催5暮らしやすい、不自由・不便さを感じない5防災・防犯対策など安全・安心面の充実4高齢者・障害者の外出が多い32.4		/•\	() (\$1) 35
健康増進施策(7)ラジオ体操、ウオーキング 市民スポーツ 高齢者・介護施策 シニアパス 随害者施策、特別支援教育(2)臓芳場所の増加10職労場所の増加10障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て 市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加 市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている 介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実7方。6インステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6メンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある 検診事業、病院など医療体制の充実5イベント・講座の開催5暮らしやすい、不自由・不便さを感じない5び災・防犯対策など安全・安心面の充実4高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用3本人の意思があれば活躍できる2その他、意見等15否定的な回答理由75.6	回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
ラジオ体操、ウオーキング 市民スポーツ 高齢者・介護施策 シニアパス 障害者施策、特別支援教育 (2) 成労場所の増加 10 障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て 活躍している、活躍する人・場の増加 (5) 活躍している、活躍する人・場の増加 (2) いきいきとしている 介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実 7 インステップバスの普及、バリアフリー対策の充実 6 差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある 6 検診事業、病院など医療体制の充実 5 イベント・講座の開催 5 暮らしやすい、不自由・不便さを感じない 5 防災・防犯対策など安全・安心面の充実 4 高齢者・障害者の外出が多い 3 公共施設の利用 3 本人の意思があれば活躍できる 2 その他、意見等 15 否定的な回答理由 7	高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	29	
市民スポーツ 高齢者・介護施策 シニアパス 障害者施策、特別支援教育(2) (2) 障害者施策、特別支援教育(4)就労場所の増加 障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て 活躍している、活躍する人・場の増加 市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加 いきいきとしている 介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実 ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実 差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある 検診事業、病院など医療体制の充実 イベント・講座の開催 暮らしやすい、不自由・不便さを感じない 著らしやすい、不自由・不便さを感じない 第6日 第7日 	健康増進施策	(7)	
高齢者・介護施策	ラジオ体操、ウオーキング	(3)	
シニアパス 障害者施策、特別支援教育(2) (4)就労場所の増加 障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て 		\-/	23. 4
障害者施策、特別支援教育(4)就労場所の増加10障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て(5)活躍している、活躍する人・場の増加10市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている7介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実7ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある6検診事業、病院など医療体制の充実5イベント・講座の開催5暮らしやすい、不自由・不便さを感じない5防災・防犯対策など安全・安心面の充実4高齢者・障害者の外出が多い3公共施設の利用3本人の意思があれば活躍できる2その他、意見等15否定的な回答理由7			
就労場所の増加 10 障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て (5) 活躍している、活躍する人・場の増加 10 市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加 (2) いきいきとしている 7 介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実 7 ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実 6 差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある 6 検診事業、病院など医療体制の充実 5 イベント・講座の開催 5 暮らしやすい、不自由・不便さを感じない 5 防災・防犯対策など安全・安心面の充実 4 高齢者・障害者の外出が多い 3 公共施設の利用 3 本人の意思があれば活躍できる 2 その他、意見等 15 否定的な回答理由 7			
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て(5)活躍している、活躍する人・場の増加 市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加10 (2)いきいきとしている7介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実7ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある6検診事業、病院など医療体制の充実5イベント・講座の開催5暮らしやすい、不自由・不便さを感じない5防災・防犯対策など安全・安心面の充実4高齢者・障害者の外出が多い3公共施設の利用3本人の意思があれば活躍できる2その他、意見等15否定的な回答理由75.6			
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て(5)活躍している、活躍する人・場の増加10市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている7介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実7ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実6差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある6検診事業、病院など医療体制の充実5イベント・講座の開催5暮らしやすい、不自由・不便さを感じない5防災・防犯対策など安全・安心面の充実4高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用3本人の意思があれば活躍できる2その他、意見等15否定的な回答理由75.6	V = V = 0.00 / V V = V = 0.00 /		8. 1
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている75.6介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実75.6ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実64.8差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある64.8検診事業、病院など医療体制の充実54.0イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て	(5)	
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加(2)いきいきとしている75.6介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実75.6ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実64.8差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある64.8検診事業、病院など医療体制の充実54.0イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	活躍している、活躍する人・場の増加	10	8 1
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実 7 5.6 ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実 6 4.8 差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある 6 4.8 検診事業、病院など医療体制の充実 5 4.0 イベント・講座の開催 5 4.0 暮らしやすい、不自由・不便さを感じない 5 4.0 防災・防犯対策など安全・安心面の充実 4 3.2 高齢者・障害者の外出が多い 3 2.4 公共施設の利用 3 2.4 本人の意思があれば活躍できる 2 1.6 その他、意見等 15 12.1 否定的な回答理由 7 5.6	市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(2)	0.1
ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実64.8差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある64.8検診事業、病院など医療体制の充実54.0イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	いきいきとしている	7	5.6
差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある64.8検診事業、病院など医療体制の充実54.0イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	7	5.6
検診事業、病院など医療体制の充実54.0イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	ノンステップバスの普及、バリアフリー対策の充実	6	4.8
イベント・講座の開催54.0暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	差別を感じない、差別意識がない人が多い、思いやりがある	6	4.8
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない54.0防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	検診事業、病院など医療体制の充実	5	4.0
防災・防犯対策など安全・安心面の充実43.2高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	イベント・講座の開催	5	4.0
高齢者・障害者の外出が多い32.4公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	5	4.0
公共施設の利用32.4本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	防災・防犯対策など安全・安心面の充実	4	3. 2
本人の意思があれば活躍できる21.6その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	高齢者・障害者の外出が多い	3	2.4
その他、意見等1512.1否定的な回答理由75.6	公共施設の利用	3	2.4
否定的な回答理由 7 5.6	本人の意思があれば活躍できる	2	1.6
	その他、意見等	15	12. 1
124 100.0	否定的な回答理由	7	5. 6
		124	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

「金のようぶりない」「金添りない」		() (dr) 数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
活躍の場がない、活躍できていない、活躍しているのは一部の人のみ	23	
障害者が活躍できていない	(3)	17. 3
高齢者が活躍できていない	(3)	
高齢者・障害者の活躍の場が少ない	(3)	
バリアフリー対策が不十分、歩道が狭い、坂・階段が多い、交通が不便	16	12.0
雇用・企業の減少	12	9.0
雇用の偏り	9	
若年層の雇用が少ない	(3)	2.0
高齢者の雇用が少ない	(2)	6.8
障害者の雇用が少ない	(2)	
女性の雇用が少ない	(2)	
高齢者・障害者施策、いじめ・不登校対策、支援体制や助成が不十分	9	6.8
差別・偏見がある	8	6. 0
具体的な取り組みが見えない、何もしてくれない	7	5. 3
PR、情報発信不足	5	3.8
地域の人間関係が希薄、地域の活動を知らない	3	2.3
弱者に冷たい、理解がない、孤立化	3	2.3
高齢化、若年層が少ない	3	2.3
他都市と比較して劣っている、他都市と同じ	3	2.3
商業施設の減少	2	1.5
施策が高齢者に偏っている	2	1.5
医療体制が不十分	2	1.5
高齢者には不便、高齢化への対応が不十分	2	1. 5
防災・防犯対策など安全・安心面が不十分	2	1. 5
福祉にかかる手続きが煩雑、行政の対応がよくない	2	1.5
その他、意見等	20	15.0
	133	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進・生涯学習施策や助成の充実、支援体制の整備	16	
高齢者・介護施策	(2)	18.6
障害者施策	(2)	
バリアフリー対策の充実	9	10.5
活躍している、活躍する人・場の増加	8	9. 3
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	6	7. 0
防災対策など安全・安心面の充実	5	5.8
福祉への理解・意識の向上、やさしくなった	5	5.8
検診事業、病院など医療体制の充実	4	4. 7
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	3	3. 5
努力が見える	3	3. 5
障害者の就労場所・就労者の増加	2	2. 3
イベント・講座の増加	2	2. 3
公共施設の利用	2	2. 3
その他、意見等	15	17.4
否定的な回答理由	6	7. 0
	86	100.0

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
雇用・企業の減少	6	17. 1
弱者に冷たい、やさしさがない	4	11.4
商店街の衰退、商業施設の減少	3	8.6
市の具体的な取り組みが見えない、何もしてくれない	3	8.6
所得の減少、生活の悪化、税金が高い	3	8.6
人口減少	2	5. 7
活気がない、発展性がない	2	5. 7
その他、意見等	12	34. 3
	35	100.0

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

市の努力が見える、取り組みが見える

その他、意見等

否定的な回答理由

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の減少、治安がよい	51	27. 1
夜道も安心	(5)	21.1
不安や危険を感じない、安心して生活できている、暮らしやすい	33	17.6
防災・災害対策の充実	20	
崖地・急傾斜地崩壊対策	(7)	10.6
防災教育	(2)	
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	13	
防犯パトロール	(5)	6. 9
子ども見守り隊	(2)	
警察の存在、警察による巡回、自衛隊・米軍の存在	7	3. 7
交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、通学路・道路整備	7	3.7
気候が温暖で災害が少ない	6	3. 2
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	6	3.2
他都市と比較してよい	6	3.2
防犯設備、防犯体制の充実	3	1. 6
街路防犯灯	(2)	1.0

2

11

23

188

1.1

5.9

12. 2 100. 0

「④あまり思わない」「⑤思わない」	*	()は内数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	42	
空き巣被害	(7)	
暴走族、若年層のバイク暴走、夜遊び	(7)	23. 2
不審者がいる、防災メールでの不審者情報が多い	(5)	
横須賀中央の治安が悪い	(2)	
通学路・歩道・道路の整備が不十分、交通量が多い、交通機関の遮断	21	11.6
米軍・自衛隊基地、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ	20	11.0
外国人、米軍人の存在、それらによる事件	12	6.6
事故が多い、交通マナーが悪い、路上駐車が多い	12	6.6
山・崖・トンネルの多さや海などによる災害への不安、活断層がある	12	6. 6
谷戸、空き家の災害時不安	(3)	0.0
防災・災害対策が不十分	10	
崖地・急傾斜地崩壊対策が不十分	(4)	5. 5
津波対策が不十分	(1)	
警察が対応してくれない、交番に警察官がいない、警察官が少ない	10	5. 5
取り組みが見えない、対策状況や災害時の対応がわからない	6	3.3
防犯設備、防犯体制が不十分	4	2. 2
街路防犯灯が少ない、夜道が暗い	(3)	2. 2
災害、事件、事故などはどこでも起こり得る	3	1.7
地域関係の希薄化、地域づくりが進んでいない、転入者とのかかわりがない	2	1. 1
市民のモラルの低下	2	1. 1
新港町への救急医療センターの移転	2	1. 1
他市と変わらない	2	1. 1
その他、意見等	21	11.6
	181	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
防災・災害対策の充実	21	
崖地・急傾斜地崩壊対策	(7)	19. 6
津波・越波・海岸侵食対策、護岸整備	(4)	
配水管等耐震化	(2)	
犯罪・事件の減少、治安がよい	16	15. 0
交通安全対策の充実、事故の減少、バリアフリー化の推進、通学路・道路整備	9	8. 4
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	7	
防犯パトロール	(3)	6. 5
子ども見守り隊	(2)	
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	6	5. 6
施策の充実	6	5. 6
防犯設備、防犯体制の充実	5	4. 7
街路防犯灯の設置	(3)	7. (
努力が見える、取り組みが見える	4	3. 7
警察の存在、警察による巡回	2	1.9
米軍・自衛隊の規律保持への努力、市民の理解	2	1. 9
改善されている、以前からよい	2	1.9
その他、意見等	15	14.0
否定的な回答理由	12	11.2
	107	100.0

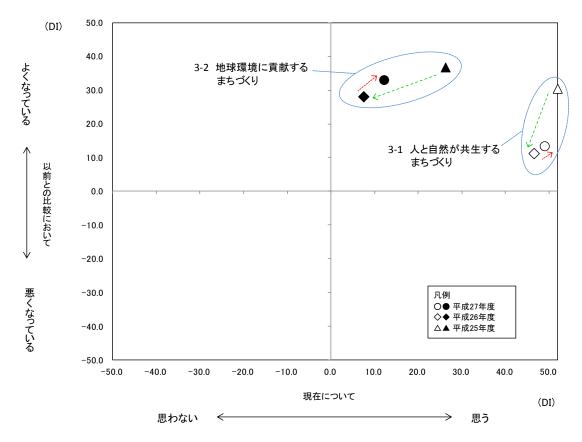
「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる	21	29.6
米軍基地がある	4	5. 6
警察の巡回が不十分、交番に警察官がいない、横須賀警察署の移転	4	5. 6
変化を感じない、以前より悪い	4	5. 6
通学路・道路・歩道の整備が不十分、交通量が多い	4	5. 6
防災・災害対策が不十分	3	4. 2
事故が多い、交通マナーが悪い	3	4. 2
地域の人間関係の希薄化	3	4. 2
新港町への救急医療センター、公共施設の移転	2	2.8
外国人の増加	2	2.8
空き家の増加、人口減少	2	2.8
山・崖・トンネルの多さなどによる災害への不安	2	2.8
全国的に悪化している	2	2.8
その他、意見等	15	21. 1
	71	100.0

重点プログラム3 『環境を守る』 ~人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり~

1 取り組みの方向性の傾向

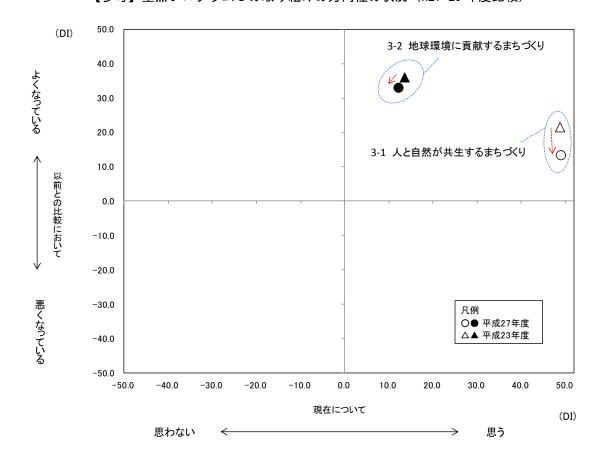
図表 II - 3 重点プログラム 3 の取り組みの方向性の状況(H27-25 年度比較)



【現在について】										
				(ポイント)						
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)–(b)	前年度比	27-23年度比		
	27年度	651	67.4	14.0	18.5	48.9	2.4			
(3-1)	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	▲ 5.4			
人と自然が共生するまちづくり	25年度	686	68.5	14.9	16.6	51.9	6.5	0.2		
	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3]		
	23年度	716	68.2	12.3	19.5	48.7	_			
	27年度	549	40.9	30.2	28.8	12.1	4.7			
(3-2)	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	▲ 18.8			
地球環境に貢献するまちづくり	25年度	616	50.6	25.0	24.4	26.2	8.1	▲ 1.4		
	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6]		
	23年度	666	43.4	26.7	29.9	13.5	_			

【以前との比較】								
			(ポイント)					
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①よくなっている+ ②どちらかというと よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかというと 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)–(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	579	34.2	45.1	20.7	13.5	2.2	
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	▲ 19.2	
	25年度	603	46.6	37.3	16.1	30.5	9.2	▲ 8.1
	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3	
	23年度	641	44.1	33.4	22.5	21.6	_	
	27年度	470	40.7	51.7	7.6	33.1	5.0	
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	▲ 8.7	
	25年度	532	46.6	43.6	9.8	36.8	0.4	▲ 3.0
	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3	
	23年度	584	46.2	43.7	10.1	36.1	_	

【参考】重点プログラム3の取り組みの方向性の状況(H27-23年度比較)



(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」ともにプラスで、特に「現在について」では50ポイント近い値を示し、実感が得られている状況といえる。前年度調査からはいずれも変化が見られなかったが、「現在について」は、若干の低下はあるものの3カ年を通じて高い値で推移している。

現在について		以前との比較			
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)		
51.9 → 46.5 → 48.9	2.4	30.5 → 11.3 → 13.5	2.2		
31.9 → 40.5 → 48.9	変化なし	30.0 / 11.5 / 13.0	変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「自然が多い、生物が多い、気候がよい、四季を感じる、空気がきれい」など本市の自然環境そのもののよさが突出して多く挙げられ、前年度調査と同様に自由記述回答者の中での割合も5割を超えている。次いで、「公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備」として自然を感じられる身近な環境について多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「自然の減少、自然破壊」が最も多く、自由記述回答者の5割を超えている。そのうち「宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化」が多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「公園・海岸線・遊歩道・散歩コースの整備」が最も多く挙げられている。次いで、 「自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進」として市の施策の充実が多く挙げ られている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「自然の減少、自然破壊」が突出して多く、自由記述回答者の7割を超えている。その中で、開発による自然破壊によるものが多く挙げられている。これらは前年度調査と同様の傾向である。

(回答理由分類については P29 参照)

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」ともにプラスで、特に「以前との比較」では 30 ポイントを超える高い値を示し、実感が得られているといえる。前年度調査からも上昇傾向が見られたが、前年度調査で大幅に低下したこともあり、それを上回るほどの回復にまでは至っていない状況である。振れ幅が大きいため、今後の動向に留意する必要がある。

現在について		以前との比較			
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)		
000 74 101	4.7	36.8 → 28.1 → 33.1	5.0		
26.2 → 7.4 → 12.1	大きな 変化なし	$36.8 \rightarrow 28.1 \rightarrow 33.1$	上昇		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル)」が突出 して多く挙げられているほか、ごみ・たばこのポイ捨てなど、まちなかで目につくご みの減少が挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない」など、市の取り組みが目に見えにくいことが最も多く挙げられている。上述のようにごみの分別やリサイクルについての肯定的な回答が多い一方で、それらが日常的に当然のこととして浸透している結果とも考えられる。そのほか、「環境破壊、自然の減少、自然破壊」として、3-1と同様に開発による自然破壊について挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少、まちがきれい」が最も多く挙げられている。次いで、「分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル)」が多く挙げられたほか、市の施策の充実として「EV (電気自動車)」の普及に関する記載が見られた。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、ここでも「環境破壊、自然の減少、自然破壊」として、開発によるものが挙げられている。

(回答理由分類についてはP31参照)

2 回答理由分類

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※() は内数

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	/•\	(/ (ar) 3X
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、生物が多い、気候がよい、四季を感じる、空気がきれい	175	55. 9
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	29	9.3
自然環境の整備・保護、緑化の推進、環境政策が進んでいる	25	8.0
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	11	3.5
自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い	10	3. 2
利便性と自然の両立、首都圏でありながら自然が多い、街や住宅地と自然の調和	9	2.9
まちづくりがよい、環境がよい、暮らしやすい	9	2.9
地域やボランティアの清掃活動、街路樹や花壇の整備などが盛ん	4	1.3
農水産業が盛ん	4	1.3
適度に田舎、のどか	4	1.3
地勢が恵まれている	4	1.3
他都市と比較して自然が多い	2	0.6
ごみの分別がされている	2	0.6
その他、意見等	13	4.2
否定的な回答理由	12	3.8
	313	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	51	57.3
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(35)	01.0
自然とふれあえる場所や機会の減少、自然が活用されていない	5	5. 6
市の取り組みが不十分、手入れがされていない、放置	4	4. 5
人工的	3	3. 4
自然を身近に感じない	2	2. 2
保全が不十分、開発後の緑生がない	2	2. 2
まちづくりや保全・活用に計画性がない、中途半端	2	2. 2
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	2	2. 2
変化を感じない	2	2. 2
その他、意見等	16	18.0
	89	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

<u> </u>	7.01	(/ 121137
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
公園・海岸線・遊歩道・散歩コースの整備	25	26. 9
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	19	20.4
海・山など自然が多い	6	6. 5
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	6	6. 5
海・河川がきれいになった	5	5. 4
地域やボランティアの清掃活動、街路樹や花壇の整備などが盛ん	4	4. 3
市全体で努力している	3	3. 2
変化がない	3	3. 2
まちなかのみどりや花の増加	2	2. 2
道路がきれい	2	2. 2
暮らしやすい	2	2. 2
意識・関心の向上	2	2. 2
その他、意見等	11	11.8
否定的な回答理由	3	3. 2
	93	100.0

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	70	71.4
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(43)	11.4
自然環境の保護・保全、環境施策が不十分	3	3. 1
管理・手入れがされていない、放置	3	3. 1
自然を身近に感じる・ふれあえる機会が少ない	2	2.0
海岸などの規制が多い	2	2.0
ごみやたばこのポイ捨てなどマナーが悪い	2	2.0
海が汚い	2	2.0
消波ブロックの増加	2	2.0
まちづくりや保全・活用に計画性がない、中途半端	2	2.0
公園が少ない、施設設備が未整備	2	2.0
その他、意見等	8	8.2
	98	100.0

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※()は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル)	62	41.9
ごみ処理施設の建設	(3)	41. 3
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、まちの美化、ポイ捨て防止活動・啓発	13	8.8
環境施策、取り組みの充実	11	7.4
下水道事業	(3)	1. 1
小学生のアイクル見学、環境教育の充実	7	4.7
地域活動・市民活動・ボランティア活動が盛ん	7	4.7
自然が多い、まちなかのみどりが多い	7	4. 7
市民への意識啓発、市民の意識向上	3	2.0
自然環境の整備・保護	3	2.0
事業内容を見て	3	2.0
企業の協力	2	1.4
街路樹・公園の整備、植林	2	1.4
その他、意見等	17	11.5
否定的な回答理由	11	7.4
	148	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	18	20.5
環境破壊、自然の減少、自然破壊	17	19. 3
宅地造成、埋め立て・道路・施設建設など開発による自然破壊	(12)	13. 5
ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄、分別などマナーが悪い	8	9. 1
環境施策や取り組みが不十分	6	6.8
基地、原子力空母、核燃料関連施設がある	6	6.8
再生可能エネルギーの利活用が進んでいない	6	6.8
海や海岸線が汚い	3	3.4
車が必要なまち	2	2.3
目立つものがない	2	2.3
努力を感じない	2	2.3
その他、意見等	17	19. 3
肯定的な回答理由	1	1.1
	88	100.0

否定的な回答理由

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

※() は内数 延件数(人) 構成比(%) 回答理由分類 ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少、まちがきれい 21 23.3 分別・リサイクルの徹底、ごみの回収、ごみ処理施設の充実(アイクル) 18 20.0 ごみ処理施設の建設 (3) 環境施策、取り組みの充実 13 14.4 E V (電気自動車) (9)意識啓発、市民の意識向上 5 5.6 地域活動やボランティア活動が盛ん 5 5.6 自然環境の整備・保護、緑化 5 5.6 海・河川がきれい 3 3.3 環境教育の充実 2 2.2 2 2.2 公園・遊歩道の整備 その他、意見等 15 16.7

1

90

1.1

100.0

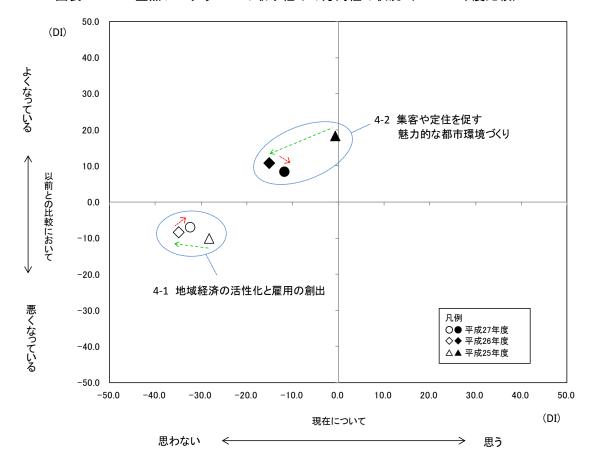
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境破壊、自然の減少、自然破壊	11	50. 0
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊	(7)	30.0
車が必要なまち、車の排出ガス	2	9. 1
市民の意識が低い	2	9.1
その他、意見等	7	31.8
	22	100.0

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

~地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり~

1 取り組みの方向性の傾向

図表 II - 4 重点プログラム 4 の取り組みの方向性の状況(H27-25 年度比較)

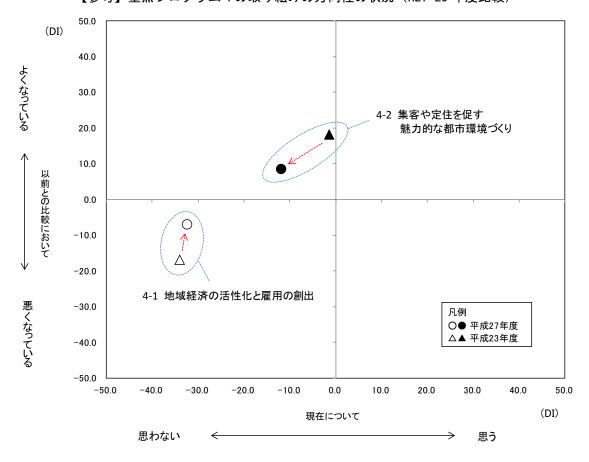


【現在について】

「現在に ジ・・・・」								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	600	24.0	19.5	56.5	▲ 32.5	2.5	
(4-1)	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	▲ 6.7	
地域経済の活性化と雇用の創出	25年度	628	24.4	22.9	52.7	▲ 28.3	4.0	1.6
	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8	
	23年度	653	20.2	25.6	54.3	▲ 34.1	_	
	27年度	634	32.4	23.3	44.3	▲ 11.9	3.3	
(4-2)	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	▲ 14.4	
集客や定住を促す魅力的な	25年度	657	37.1	25.0	37.9	▲ 0.8	4.3	▲ 10.4
都市環境づくり	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6	
	23年度	685	37.0	24.5	38.5	▲ 1.5	_	

【以前との比較】 (ポイント) ①よくなっている+ ②どちらかというと ④どちらかというと 悪くなっている+ ⑤悪くなっている(b) 取り組みの方向性 調査年度 件数(人) ③変わって 27-23年度比 前年度比 いない (a)-(b) よくなっている (a) 27年度 524 27.4 38.2 **▲** 6.9 34.3 (4-1) 26年度 519 26.4 38.9 34.7 ▲ 8.3 1.7 地域経済の活性化と雇用の創出 25年度 557 25.9 38.2 35.9 ▲ 10.0 2.9 9.9 24年度 577 24.8 37.4 37.7 ▲ 12.9 3.9 23年度 595 22.2 38.8 39.0 ▲ 16.8 27年度 540 33.1 42.2 24.6 8.5 **▲** 2.4 (4-2) 26年度 557 33.3 44.3 22.4 10.9 **▲** 7.5 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり 25年度 581 38.9 40.6 20.5 18.4 2.5 **▲** 9.8 ▲ 2.4 24年度 598 35.8 44.3 19.9 15.9 23年度 609 38.0 42.4 19.7 18.3

【参考】重点プログラム4の取り組みの方向性の状況(H27-23年度比較)



(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」ともにマイナスとなっている。特に「現在について」はマイナスが大きく、前年度調査からの変化も見られなかった。 3カ年の DI は、全ての取り組みの方向性の中で最も低く、依然として実感が得られていない状況が続いている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)
	2.5	▲ 10.0 → ▲ 8.3 → ▲ 6.9	1.4
20.5	変化なし	10.0	変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が最も多く挙げられ、「軍港めぐり」「イベントの開催」などについての記載が見られた。ほかに、「地域経済の活性化、商業施設、大型商業施設の増加」や、市の施策の充実として、「地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ」「企業誘致」などが挙げられた。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出」「企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退」など雇用情勢等の厳しさや産業の衰退のほか、市の施策に対する不足感として「企業誘致、産業の創出」などの記載が見られた。ほかに、横須賀中央など中心市街地のにぎわいのなさや、商業を中心とした地域経済の衰退も多く挙げられた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「現在について」と同様に、観光事業や市の施策の充実が多く挙げられ、イベントや 地産地消等に対する印象がよいことがうかがえる。これは前年度調査と同様の傾向で ある。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

企業の減少や産業の衰退について最も多く挙げられたほか、商業を中心とした地域経済の衰退、雇用の減少、中心市街地のにぎわいのなさなど、多寡の違いはあるものの「現在について」と同様の理由が多く挙げられている。

(回答理由分類については P37 参照)

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

今回調査の DI は、「現在について」でマイナスとなったが、「以前との比較」ではプラス値を維持している。しかし、前年度調査からはいずれも大きな変化は見られず、特に「現在について」では▲10 ポイントを下回る値が続き、現状に対して実感が得られているとはいえない状況である。

現在について 以前との比較			
DIの推移 (05年度 - 03年度 - 03年度)	年度差と状況		年度差と状況
(25年度 → 26年度 → 27年度)	(対26年度)	(25年度 → 26年度 → 27年度)	(対26年度)
	3.3	18.4 → 10.9 → 8.5	▲ 2.4
	大きな 変化なし	10.1	変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

4-1と同様に、「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が突出して多く挙げられている。ほかに、市の施策の充実や「マンションの建設」などが挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「階段・坂が多い、道路整備が不十分、交通利便性が低い」として、坂などが多いことや道路網などによる不便さのほか、バスなどの公共交通の不便さについての記載が見られた。ほかに「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出」が多く挙げられており、平成26年1月に総務省が出した平成25年(2013年)の人口移動報告(転出超過)についての記載も見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

「現在について」と同様に、「イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加」が多く挙げられたほか、PR などメディアによる露出の増加などによる回答も見られた。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少」のほか、中心市街地の様子や商業を中心とした地域経済の衰退が挙げられている。

(回答理由分類については P39 参照)

2 回答理由分類

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※()は内数

	/•\	() (3) (3)
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	34	
軍港めぐり	(7)	
イベントの開催	(7)	33. 0
海軍カレー	(3)	
YYポート横須賀	(3)	
地域経済の活性化、商業施設、大型商業施設の増加	16	15. 5
施策の充実	13	
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(8)	12.6
企業誘致	(2)	
雇用の増加	5	4. 9
努力が見える	5	4. 9
横須賀中央や平成町などの開発	4	3. 9
YRPがある	3	2.9
事業内容を見て	3	2.9
基地の活用	2	1.9
その他、意見等	9	8.7
否定的な回答理由	9	8. 7
	103	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出	60	25. 9
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退	34	14. 7
施策が不十分、特色や面白みがない	33	
企業誘致、産業の創出	(14)	
雇用対策	(5)	14. 2
中小企業への支援	(2)	
商業振興	(2)	
中心市街地ににぎわいや活気を感じない	17	7. 3
商店街に活気がない、空き店舗の増加	16	6. 9
人口減少・人口流出	13	5. 6
大型商業施設の減少、買い物客等の市外への流出、魅力ある商業施設がない	12	5. 2
車でしか行けない郊外型大型商業施設しかない	(3)	5. 2
地域経済が活性化していない	12	5. 2
基地の活用が少ない	3	1.3
他都市と比較して劣る、遅い	3	1.3
観光業が弱い	3	1.3
経済の悪化、不景気	3	1.3
取り組みが見えない、実行性がない	2	0.9
地域差がある	2	0.9
交通利便性が低い、渋滞	2	0.9
その他、意見等	17	7. 3
	232	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

<u> </u>		
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光できる場所の増加、観光客の増加	24	
イベントの開催	(9)	26.7
施設の増加	(3)	
海軍カレー	(2)	
施策の充実	16	17.8
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(8)	
雇用の増加	10	11. 1
地域経済の活性化、商業施設の増加	9	10.0
平成町の開発	5	5.6
テレビなどメディアで取り上げられる、知名度の上昇	4	4.4
努力が見える	4	4.4
中心市街地の活性化	2	2.2
その他、意見等	7	7.8
否定的な回答理由	9	10.0
	90	100.0

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
企業が少ない、企業・工場の撤退、産業の衰退	24	21. 2
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	17	15. 0
大型商業施設の開店による個店の減少	(4)	10.0
雇用の減少、求人が少ない、労働力人口の流出、低賃金	16	14. 2
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、開発が進まない	11	9. 7
大型商業施設の減少、郊外型大型商業施設ばかり、買い物客等の市外流出	11	9. 7
人口減少・人口流出	8	7. 1
施策が不十分	7	6. 2
雇用対策、企業誘致	(6)	0.2
経済が活性化していない、悪化	4	3. 5
その他、意見等	15	13. 3
	113	100.0

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

	77 14 *4 / 1 \	
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	39	
イベントの開催	(16)	27. 9
軍港めぐり	(2)	
施策の充実	15	10.7
谷戸・空き家対策	(6)	10.1
マンションの建設	12	8.6
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	7	5.0
大型商業施設の増加、商業施設の充実	7	5.0
住みやすい	6	4. 3
観光・レジャーができる自然・施設・名所がある、観光資源が豊富	6	4.3
努力が見える	5	3.6
横須賀が好き、定住したいと思う	4	2.9
都市部に近い、交通利便性が高い	3	2. 1
豊かな自然環境	3	2. 1
中心市街地の活性化	2	1.4
その他、意見等	15	10.7
否定的な回答理由	16	11. 4
	140	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」	*	() は内数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
階段・坂が多い、道路整備が不十分、交通利便性が低い	25	
公共交通が不便	(8)	13. 4
都市部から遠い	(2)	
高齢者は住みにくい	(2)	10.0
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	23	12. 3
施策が不十分、新しさがない	18	0 0
集客、観光などの施策が不十分、集客できていない	(8)	9. 6
定住施策が不十分	(2)	
大型商業施設が少ない、魅力的な商業施設がない、買い物客等の市外流出	17	9. 1
魅力がない	14	7 -
他都市と比較して魅力がない・劣る	(4)	7. 5
定住を促す魅力的な要素がない	(2)	
魅力的な観光資源・施設が少ない	8	4. 3
雇用・企業の減少	7	3. 7
生活利便性が低い	6	3. 2
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	6	3. 2
PR不足	6	3. 2
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	6	3. 2
税金が高い、物価が高い	5	2.7
公園・子どもの遊び場など子育て施設が不十分	4	2. 1
中心市街地に活気がない	3	1.6
地域差がある、一部地域(新住宅地周辺など)しか開発・環境整備されない	3	1.6
空き家が多い	3	1.6
基地の存在、マイナスイメージ	3	1.6
地域の人間関係がよくない	2	1. 1
集客が定住につながるとは思わない	2	1.1
変化を感じない、後退している	2	1.1
その他、意見等	24	12.8
	187	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

, (b, c, a, c, c, a)	/•\	() (0) (3%
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントや土産物など観光事業の充実、観光客の増加	25	27.8
イベントの開催	(7)	21.0
PRの向上、イメージの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	8	8.9
施策の充実	6	6. 7
谷戸・空き家対策	(2)	0.1
道路整備、交通利便性の向上	6	6. 7
観光・レジャーができる施設の増加	4	4.4
マンション、住宅地の開発が進んでいる	3	3. 3
大型商業施設の増加	3	3. 3
住みやすい	2	2.2
努力が見える	2	2.2
その他、意見等	22	24.4
否定的な回答理由	9	10.0
	90	100.0

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少	26	30. 2
中心市街地に活気がない	9	10.5
大型商業施設の減少、魅力的な商業施設がない	6	7. 0
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	6	7.0
施策が不十分	5	5, 8
定住施策が不十分	(3)	5.0
雇用・企業の減少	4	4. 7
地域差がある、一部地域(新住宅地周辺など)しか開発・環境整備されない	3	3. 5
道路整備が不十分、交通利便性が低い	3	3. 5
空き家が多い	3	3. 5
魅力がない	2	2.3
生活利便性が低い	2	2.3
PR不足	2	2. 3
その他、意見等	15	17. 4
	86	100.0



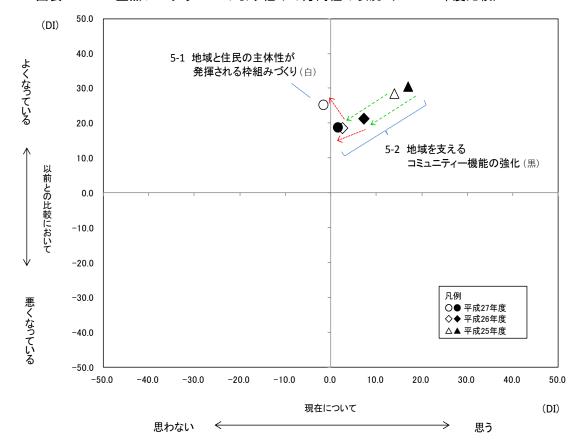
重点プログラム5 『地域力を育む』

~地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・

地域を支えるコミュニティー機能の強化~

1 取り組みの方向性の傾向

図表 II - 5 重点プログラム 5 の取り組みの方向性の状況(H27-25 年度比較)

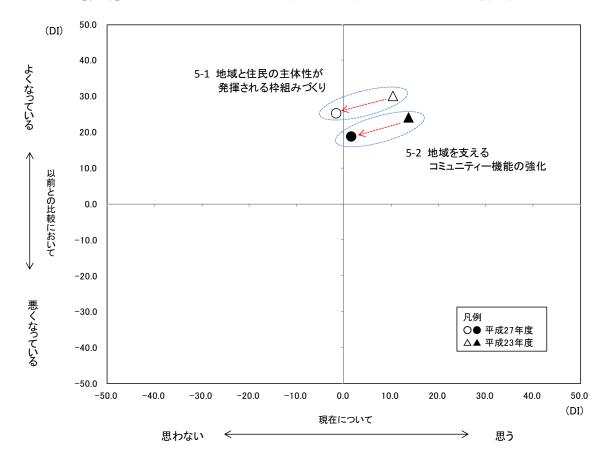


【現在について】

【現在について】								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	501	34.7	28.9	36.4	▲ 1.7	▲ 4.2	
(5-1)	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	▲ 11.4	
地域と住民の主体性が発揮される	25年度	578	41.9	30.1	28.0	13.9	3.8	▲ 12.0
枠組みづくり	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2	
	23年度	599	40.8	28.7	30.5	10.3	-	
	27年度	541	37.4	26.8	35.9	1.5	▲ 5.7	
(5-2)	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	▲ 9.7	
地域を支えるコミュニティー機能の	25年度	591	44.0	28.9	27.1	16.9	9.8	▲ 12.1
強化	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5	
	23年度	630	42.0	29.5	28.4	13.6	_	

【以前との比較】								
								(ポイント)
取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	①よくなっている+ ②どちらかというと よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかというと 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
	27年度	410	36.4	52.7	11.0	25.4	6.7	
(5-1)	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	▲ 9.9	
地域と住民の主体性が発揮される	25年度	502	38.0	52.6	9.4	28.6	▲ 0.6	▲ 4.8
枠組みづくり 	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0	
	23年度	516	39.1	51.9	8.9	30.2	_	
	27年度	451	34.4	50.1	15.5	18.9	▲ 2.5	
(5-2)	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	▲ 9.2	
地域を支えるコミュニティー機能の	25年度	498	41.4	47.8	10.8	30.6	2.1	▲ 5.3
強化	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3]
	23年度	536	36.2	51.9	12.0	24.2	_	

【参考】 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況(H27-23年度比較)



(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

今回調査のDIは、「現在について」でマイナスに転じた。一方、「以前との比較」では 約 25 ポイントのプラス値で前年度調査からも上昇している。「現在について」は3 カ 年で約 15 ポイントの減少となっており、今後の動向に留意が必要である。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)
13.9 → 2.5 → ▲ 1.7	▲ 4.2	28.6 → 18.7 → 25.4	6.7
13.9 → Z.3 → ▲ 1.7	大きな 変化なし	20.0 → 18.7 → 23.4	上昇

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く、自由記述回答者の中での割合も5割を超えている。特に「子ども見守り隊」についての記載が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足、核になる人材がいない」など少子高齢化等に伴う影響がうかがえる回答が多く見られる。また、活動が平日に行われ、単身・子育て世帯や就労者、市外への通勤者等は参加できない状況となっていることを指摘する回答が見られた。

- ◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 回答数は多くないが、「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」 が多く挙げられている。
- ◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 回答数は少ないが、少子高齢化や人口減少により活動規模が縮小し、取り組みの方向 性で掲げている「主体性の発揮」は困難とする回答が見られる。

(回答理由分類については P47 参照)

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティー機能の強化

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」ともにプラスとなっているが、「現在について」の値は小さく、前年度調査との比較でも低下が見られた。また、3カ年で「現在について」「以前との比較」いずれも10ポイント以上減少しており、動向に留意する必要がある。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)
16.9 → 7.2 → 1.5	▲ 5.7	30.6 → 21.4 → 18.9	▲ 2.5
10.9 7 7.2 7 1.3	低下	30.0 -7 21.4 -7 16.9	変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

5-1と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く挙げられている。ほかに、「コミュニティセンター(行政センター)等施設の利用者の増加、講座等の開催」など、活動の場についての回答や、活動参加者の増加などについての回答が多く見られる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差、核になる人材がいない」「地域の人間関係が希薄、無関心、他人任せ」など、人口減少、少子高齢化等に伴う影響や、地域の人間関係の希薄化がうかがえる回答が多く見られた。また、上述のように肯定的な回答割合で多く挙げられたコミュニティセンター等の施設について、住環境や交通手段による利用のしにくさ、気軽に利用できないなどの回答も見られた。また、5-1と同様に、活動が平日に行われることで参加できないなどの回答も見られた。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 回答数は多くないが、「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛 ん」が最も多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 回答数は少ないが、「現在について」と同様に、人口減少、少子高齢化等に伴う影響 や、地域の人間関係の希薄化がうかがえる回答が挙げられている。

(回答理由分類については P49 参照)

2 回答理由分類

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※()は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	57	
子ども見守り隊	(18)	56. 4
クリーン活動	(4)	
地域のイベントがある	8	7.9
自主的に取り組んでいる、市民・地域が努力している	6	5. 9
市と地域の連携	3	3.0
コミュニティセンター等の施設利用	3	3.0
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい	2	2.0
自治基本条例の検討	2	2.0
行政の対応がよい、努力が見える	2	2.0
事業を見て	2	2.0
その他、意見等	10	9.9
否定的な回答理由	6	5. 9
	101	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足、核になる人材がいない	13	14. 4
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない	12	13.3
行政主導、市民の声が市政に反映されない、どう反映されているかわからない	8	8.9
活性化しない、前例踏襲で活動内容に変化がない	6	6. 7
地域の人間関係が希薄、無関心、他人任せ	6	6. 7
市からの積極的な働きかけがない、市と地域の連携がない	5	5. 6
一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い	5	5. 6
伝わってこない、活動を知らない、知らないから参加できない	4	4. 4
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民の立場が弱い	4	4. 4
平日日中の活動が多い、単身・子育て世帯や就労者等の生活パターンに合わない	4	4. 4
施策が不十分	4	4. 4
町内会加入者の減少、名簿のみの参加、輪番制	3	3. 3
市の努力不足、意識が低い	2	2. 2
基地に依存している	2	2. 2
その他、意見等	12	13. 3
	90	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※()は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	28	
子ども見守り隊	(10)	47. 5
クリーン活動	(3)	
施策の充実	3	5. 1
補助金の支給	(2)	0.1
住民の連携がよい、コミュニケーションの増加	3	5. 1
高齢者の活躍の場がある、高齢者が活躍している	3	5. 1
市民意識の向上	3	5. 1
地域のイベントがある	2	3.4
以前から進められている	2	3.4
その他、意見等	10	16.9
否定的な回答理由	5	8.5
	59	100.0

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
少子高齢化・人口減少で主体性が発揮しづらい	4	14.3
高齢化と活動の衰退、若年層・子どもの減少	3	10.7
地域の人間関係が希薄、他人任せ	3	10.7
地域のイベントの縮小	2	7.1
町内会加入者の減少、地域活動参加者の減少	2	7.1
平日日中の活動が多い、単身・子育て世帯や就労者等の生活パターンに合わない	2	7.1
その他、意見等	12	42.9
	28	100.0

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティー機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※()は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	42	
子ども見守り隊	(6)	40.0
自主防災訓練	(2)	
ラジオ体操	(2)	
コミュニティセンター (行政センター) 等施設の利用者の増加、講座等の開催	20	19.0
大津行政センターの建設	(2)	10.0
地域に参加する人の増加、活動の増加、高齢者の活躍	9	8.6
若年層の活動の増加	(2)	
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、ネットワークがある	7	6.7
情報発信の充実 (回覧板等)	4	3.8
地域のイベントがある	3	2.9
施策の充実	2	1.9
自主的に取り組んでいる、地域住民が努力している	2	1.9
他都市と同じで進んでいる	2	1.9
その他、意見等	6	5. 7
否定的な回答理由	8	7.6
	105	100.0

<u>「④あまり思わない」「⑤思わない」</u>

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差、核になる人材がいない	14	13. 5
地域の人間関係が希薄、無関心、他人任せ	13	12.5
活動を知らない、伝わってこない、参加する方法が分からない	8	7. 7
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない、成果が見えない	8	7. 7
コミュニティセンター等施設を気軽に利用できない、駐車場が狭い、アクセスが悪い	8	7.7
活性化しない、閉鎖的、旧態依然	8	7.7
町内会加入者の減少、地域活動参加者の減少	5	4.8
若年層の参加が少ない	(3)	1.0
施策が不十分	5	4.8
地域住民の調和がない、新住民を受け入れない	4	3.8
場がない	3	2.9
平日日中の活動が多い、単身・子育て世帯や就労者等の生活パターンに合わない	3	2.9
地域差がある	3	2.9
一部の人のみが活動している	2	1.9
意識が低い	2	1.9
その他、意見等	18	17. 3
	104	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

※()は内数	
--------	--

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	16	29.6
コミュニティセンター (行政センター) 等施設の利用者の増加、講座等の開催	7	13.0
地域に参加する人や場の増加	6	11. 1
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、声かけ、共助の推進	4	7.4
施策の充実	4	7. 4
市民公益活動団体への支援	(2)	1
情報発信の充実(回覧板等)、呼びかけの増加	3	5. 6
市と地域の姿勢、連携	3	5. 6
その他、意見等	8	14.8
否定的な回答理由	3	5. 6
	54	100.0

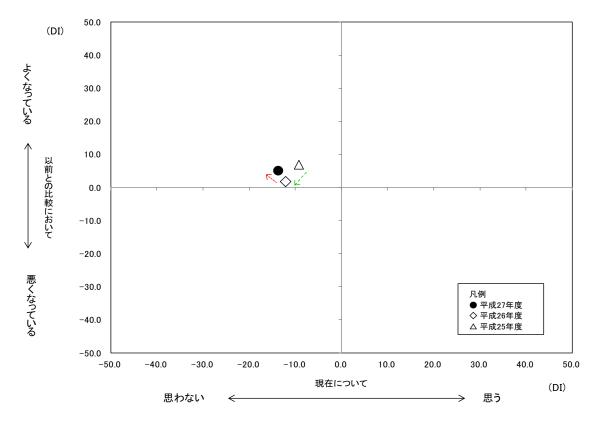
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
住民の減少、高齢化と活動の衰退、機能低下、世代間格差	10	25.0
地域の人間関係が希薄、関わりがない	6	15.0
町内会加入者の減少、若年層の参加が少ない	3	7. 5
輪番制が負担	2	5. 0
非常識な人が多い	2	5. 0
コミュニティセンター等施設を利用しにくい	2	5. 0
活性化しない、女性の立場が弱い	2	5. 0
その他、意見等	13	32. 5
	40	100.0

Ⅲ 持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)について

重点プログラムの狙いである「**人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、 着実に成長できるための都市力(都市の魅力)を備えているまち**」に対しての実感を尋ね た。

1 持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)を備えているまちの傾向

図表Ⅲ-1 「持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)を備えているまち」の状況(H27-25 年度比較)



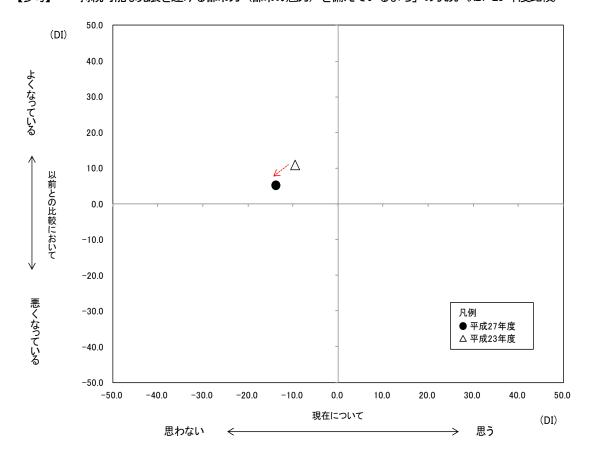
【現在について】

1-90 ILL DU						()					/ 10 A. 13
						(%)					(ポイント)
調査年度	件数(人)	①思う	②やや思う	③どちらとも いえない	④あまり 思わない	⑤思わない	①+② (a)	4 + 5 (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
27年度	631	12.8	18.4	23.8	27.4	17.6	31.2	45.0	▲ 13.8	▲ 1.6	
26年度	616	11.5	19.5	25.8	27.8	15.4	31.0	43.2	▲ 12.2	▲ 2.9	
25年度	630	11.1	20.3	27.8	24.4	16.3	31.4	40.7	▲ 9.3	3.8	▲ 4.2
24年度	671	11.2	19.2	26.1	26.2	17.3	30.4	43.5	▲ 13.1	▲ 3.5	
23年度	676	12.1	19.4	27.4	24.4	16.7	31.5	41.1	▲ 9.6	_	

【以前との比較】

I WHICO		(%)					(ポイント)				
調査年度	件数(人)	①よくなって いる	②どちらかとい うとよくなって いる	③変わって いない	④どちらかとい うと悪くなって いる	○亜/かって	①+② (a)	(4)+(5) (b)	DI (a)-(b)	前年度比	27-23年度比
27年度	536	4.9	24.1	47.2	13.4	10.4	29.0	23.8	5.2	3.3	
26年度	530	5.3	22.5	46.4	15.5	10.4	27.8	25.9	1.9	▲ 5.1	
25年度	550	7.3	23.3	45.8	14.9	8.7	30.6	23.6	7.0	▲ 0.2	▲ 5.8
24年度	561	6.4	23.5	47.4	14.1	8.6	29.9	22.7	7.2	▲ 3.8	
23年度	578	8.0	23.4	48.3	11.9	8.5	31.4	20.4	11.0	_	

【参考】 「持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)を備えているまち」の状況(H27-23年度比較)



今回調査の DI は、「現在について」で約 14 ポイントのマイナス値となっている。「以前との比較」はプラスであるものの、その値は大きくはない。前年度調査との比較では、いずれも大きな変化は見られないものの、特に「現在について」は3 カ年を通じて DI が減少傾向となっており、実感が得られているとはいえない状況である。

現在について		以前との比較			
DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)	DIの推移 (25年度 → 26年度 → 27年度)	年度差と状況 (対26年度)		
▲ 9.3 → ▲ 12.2 → ▲ 13.8	▲ 1.6 変化なし	7.0 → 1.9 → 5.2	3.3 大きな 変化なし		

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「都市力を備えている、可能性がある、成長している、魅力がある」という横須賀の 都市力や今後の発展可能性などの回答が最も多く挙げられている。ほかに市の施策の 充実、交通利便性、住みやすさ、自然環境、観光などについて挙げられている。これ らの上位項目は、多寡の違いはあるものの、前年度調査とほぼ同様の項目である。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

市の施策の不足感や「魅力がない、中途半端」など厳しい回答が多く挙げられた。市内外の子育て世代から「住むまち」として選んでもらうための取り組みを打ち出している中で、ターゲット層にとっての魅力のなさを指摘する回答も見られた。ほかに、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層・子育て世代の流出、子どもがいない」「雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」などが多く挙げられている。

◆以前との比較「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」

市の施策の充実に対する回答が多く挙げられ、中でも集客・観光に関する記載が多く 見られた。ほかに「テレビなどメディアで取り上げられる、PRの向上、知名度の上昇」 「魅力が増した、イメージの向上」など、メディアによる露出の増加に対する好意的 な回答が見られた。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出」が最も多く挙げられている ほか、「雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」や市の政策に対す る不足感が挙げられている。また、「商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、商 店街空き店舗の増加、買い物客の市外流出」なども挙げられている。

2 回答理由分類

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

	/•\	() (5) (3)
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
都市力を備えている、可能性がある、成長している、魅力がある	19	11.8
施策の充実	17	
谷戸・空き家対策	(3)	10.6
子育て施策	(2)	
福祉施策 都市部に近い、交通利便性が高い	(2)	8. 7
環境がよい、バランスがよい、生活利便性が高い、住みやすい、住み続けたい	14	8. 7
豊かな自然環境、温暖な気候	13	8. 1
他にはない魅力を活用した集客、観光資源が豊富、知名度がある	12	7. 5
開発・転入者の増加、子育て世帯や子どもの増加、転出の抑制	6	3. 7
地理的条件がよい	5	3. 1
基地の存在、国際交流	5	3. 1
横須賀に愛着のある人が多い	4	2.5
歴史、豊富な文化資産	3	1.9
地場産品、農水産業	2	1.2
地域活動が盛ん、地域の連携、コミュニティがある	2	1.2
まちに個性がある	2	1.2
住宅が安い、物価が安い	2	1.2
その他、意見等	19	11.8
その他の否定的な回答理由	22	13. 7
	161	100.0

_「④あまり思わない」「⑤思わない」	*	()は内数
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策が不十分、遅れている、施策に特色がない	40	
出産・子育て施策や助成が不十分	(6)	
福祉施策が不十分	(5)	
教育環境が不十分	(4)	18.6
横須賀を代表するものがない、都市間競争に勝てる特色がない、他都市の真似 定住施策が不十分、若年層が定住したいと思う施策が不十分	(3)	
自然に頼りすぎ	(2)	
魅力を生かせていない	(2)	
魅力がない、中途半端	34	
市外の人にとって住みたいと思える(移住する)ほどの魅力がない	(4)	
他都市と比較して劣る	(4)	15.8
若い夫婦・子育て世代に魅力がない、子育て環境としての魅力がない 若年層に魅力がない	(3)	
ベッドタウンとしての魅力がない	(2)	
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層・子育て世代の流出、子どもがいない	25	11.6
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	16	7.4
都市力を備えていない、成長がない、持続可能性がない、衰退	13	6.0
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、商店街空き店舗の増加、買い物客の市外流出	10	4. 7
交通利便性が低い、車がないと不便、道路整備が不十分、道が狭い、坂が多い	10	4. 7
都市部まで遠い	(3)	11.1
PR、情報発信不足	7	3. 3
中心市街地やまちに活気がない	5	2.3
生活利便性が低い、市内で用が足せない、不便	4	1.9
基地に頼りすぎ	4	1.9
遊べる場所がない (市外へ行く)	3	1.4
基地と原子力のマイナスイメージ	3	1.4
地理的条件が悪い、陸の孤島	3	1.4
税金等が高い、物価が高い、土地が高い	3	1.4
今の横須賀では(努力しても)厳しい	3	1.4
ベッドタウン、住宅ばかり多い	2	0.9
大型施設がない	2	0.9
空き家が多い	2	0.9
観光地としてはよいが住むまちとしてはよくない	2	0.9
行政の努力不足	2	0.9
その他、意見等	22	10.2
	215	100.0

「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	23	
集客・観光事業の充実、観光スポットの増加、観光客の増加	(11)]
子育て施策	(2)	31. 1
福祉施策	(2)	ļ
雇用対策、企業誘致	(2)	
テレビなどメディアで取り上げられる、PRの向上、知名度の上昇	5	6.8
生活利便性の向上、環境が整ってきた、住みやすくなった	4	5. 4
魅力が増した、イメージの向上	2	2.7
若年層、転入者の増加	2	2. 7
交通利便性の向上、都市部に近い	2	2.7
公園の整備	2	2. 7
その他、意見等	21	28.4
否定的な回答理由	13	17.6
	74	100.0

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	24	28. 2
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	11	12.9
施策が不十分、特色がない	9	10.6
出産・子育て施策や助成が不十分	(4)	10.0
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、商店街空き店舗の増加、買い物客の市外流出	6	7. 1
都市力を備えていない、成長がない、後退・衰退	6	7. 1
魅力がない	6	7. 1
他都市と比較して劣る	(4)	7.1
交通利便性が低い	4	4. 7
中心市街地やまちに活気がない	4	4. 7
行政の努力不足	3	3. 5
その他、意見等	12	14. 1
	85	100.0

IV 持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)

一 優先して取り組むべき政策について 一

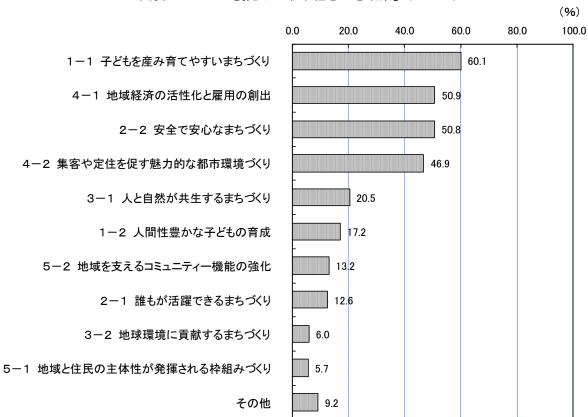
「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきか」について、重点プログラムを構成する 10 項目の取り組みの方向性と「その他」の選択肢を設け尋ねた。

(複数回答3つまで)

1 優先して取り組むべき政策の傾向

(1) 平成27年度調査結果

- ・「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の回答割合が最も高く (60.1%)、次いで「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」(50.9%)、「2-2 安全で安心なまちづくり」(50.8%)、が選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」 が最も多く選択されている。「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」「2-2 安全 で安心なまちづくり」も、1番目の項目として同様の順位傾向となっているが、この 2項目の回答割合に差は見られない。



図表IV-1 「優先して取り組むべき政策」(n=697)

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表Ⅳ-2 「優先して取り組むべき政策」(選択順位別)

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム1	(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	419	60.1	264	37.9	81	11.9	74	11.1
	(1-2)人間性豊かな子どもの育成	120	17.2	39	5.6	52	7.6	29	4.4
プログラム2	(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	88	12.6	30	4.3	29	4.3	29	4.4
	(2-2)安全で安心なまちづくり	354	50.8	115	16.5	158	23.2	81	12.2
プログラム3	(3-1)人と自然が共生するまちづくり	143	20.5	24	3.4	67	9.8	52	7.8
	(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	42	6.0	2	0.3	20	2.9	20	3.0
プログラム4	(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	355	50.9	121	17.4	127	18.6	107	16.1
	(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	327	46.9	67	9.6	115	16.9	145	21.8
プログラム5	(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	40	5.7	2	0.3	8	1.2	30	4.5
	(5-2)地域を支えるコミュニティー機能の強化	92	13.2	6	0.9	18	2.6	68	10.2
その他		64	9.2	27	3.9	6	0.9	31	4.7
回答数(n)				697	100.0	681	100.0	666	100.0

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(2) 平成 27 年度-25 年度調査結果

- ・平成25年度調査以降、全体的な回答割合の傾向に大きな差は見られない。
- ・前年度調査と比較して、2位の「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」と、3位の「2-2 安全で安心なまちづくり」が逆転している。また、2-2は3カ年で6.8ポイント減少しており、全ての取り組みの方向性の中で最も動きが大きい。
- ・これら以外では、「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が 8.4 ポイント増加している。(2年続けての増加傾向)

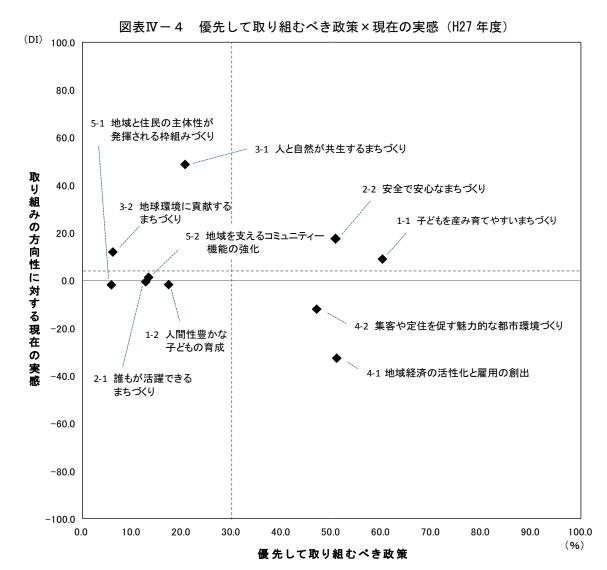
図表IV-3 「優先して取り組むべき政策」の回答割合(H27-25 年度比較)

取り組みの方向性		27年度(n=697)		26年度(n=719)		度(n=698)	27-26年度比	26-25年度比
		回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	27~20年度比	20-20年及此
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	1	60.1	1	61.6	1	58.7	▲ 1.5	2.9
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	2	50.9	3	49.0	3	51.6	1.9	▲ 2.6
(2-2) 安全で安心なまちづくり	3	50.8	2	55.1	2	57.6	▲ 4.3	▲ 2.5
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	46.9	4	42.8	4	38.5	4.1	4.3
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	20.5	5	24.3	5	23.5	▲ 3.8	0.8
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	17.2	6	16.3	6	20.6	0.9	▲ 4.3
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	7	13.2	7	15.3	8	12.2	▲ 2.1	3.1
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	8	12.6	8	11.1	7	15.2	1.5	▲ 4.1
(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	9	6.0	9	6.3	9	7.7	▲ 0.3	▲ 1.4
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	10	5.7	10	5.8	10	4.7	▲ 0.1	1.1
その他	_	9.2	_	7.5	_	5.6	1.7	1.9

[※]着色は選択順位別の上位3項目

2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感

- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」の DI が平 均値より低い項目は、プログラム 4 を構成する取り組みの方向性の 2 つとなった。
- ・プログラム1を構成する取り組みの方向性は、いずれも「現在の実感」の DI が平均値 に近いが、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が大きく異なり、「1-1 子ども を産み育てやすいまちづくり」は全政策の中で最も優先度が高い。一方、「1-2 人間性豊かな子どもの育成」は平均値を下回っている。
- ・同様に、プログラム 2 を構成する取り組みの方向性でも「2-2 安全で安心なまちづくり」は優先度が 3 番目に高いが、「2-1 誰もが活躍するまちづくり」は平均値を下回っている。
- ・プログラム3とプログラム5を構成する取り組みの方向性は、いずれも「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低くなっている。



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合(%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感(DI)」それぞれの平均値を示したもの(X=28.4 Y=4.1)

平均値の推移: 25年度 (X=29.0 Y=11.3) 26年度 (X=28.5 Y=3.5)

3 自由記述回答 ※選択肢⑪その他 自由記述

主な回答(自由記述) (n=52)

中学生までの子どもの医療費、給食費の無料化の実施

子どもたちと自然力が大切

教育に対するレベルを上げてもらいたい。

子どもの教育環境をととのえる。

質の良い教育と質の良い教員の採用

高齢者やその親を持つ子の高齢化、受け入れ施設の問題

高齢者問題

老人が安心して暮らせる老後

老人が移住することなく、死ぬまでいられるような大きなプロジェクト

特別養護老人ホームの増設

社会福祉の充実化による(ゆりかごから墓場まで)計画・実践の実現化

図書館の場所をもっとよくし、広くしてほしい。これ以上公園を作らない方がいい。

原子力空母に対する考え・準備等、的確に市民に公表することが大切

④と⑥をミックスして、⑤が加われば、自然に人口が増えて、観光客もより増える。 自然を作る。【人工海岸(砂浜海岸)や川(ドブ川)の整備 →海がきれいになり豊かに なる。下水道の充実。森の管理運営(ガイドツアー) →作っていくところから参加でき る森。自転車に乗って行きたくなるところが少ない。駐輪場(小規模)】

経済の活性化と雇用の創出が人口流出を防ぎ、若者が市に定着することで、子どもを産み育て、良い学校に学び地元に戻って企業で働くという活性化が必要。全て人口定着が 第一歩と考える。

→法人の誘致ができないか? →工業団地等で大企業の進出を計画しては。 →西部地区 の活力の出る対策は!! (いま一つ活力がないのでは!!)

→横浜方面への通勤可能な私鉄の乗り入れの検討 →横須賀線の複線化により、横須賀、衣笠、久里浜の活性化を生み、西部地区の表玄関にできないか?

最低賃金の引き上げ

企業誘地、新産業の創出、都市部へのバイパス作り

企業誘致

沖縄から基地を横須賀へ

若い人が結婚できないでいる。結婚して生活できるように、子どもを育てられるよう に、収入を得る企業が必要だと思う。

住む(仕事がある) →結婚する(相手がいる) →子どもをつくる(経済的に自立できる、安定)

子どもはまた仕事がある横須賀に住む。仕事があって、この場所である程度のくらしができれば、そこにとどまると思う。

人口を増やすため、大企業の誘致またはその社宅や家族寮を増やす。

雇用創出かベッドタウンかはっきりさせることが必要

雇用は横須賀に限らず、通いやすければよい。

集客よりも定住が重要

主な回答(自由記述) (n=52) つづき

子ども手当などを作って、20~30代の世代の定住者を呼び込む。

住宅の支援はもっと必要である。

駅から家が遠い人の交通の利便性があるとよい。

横浜横須賀道路の値下げ

公共交通機関の整備

横須賀市では市外に通勤・通学する人が多いので、学校や運動施設が新設された佐原地区にJRの新駅を新設するなど、電車通勤・通学しやすいよう、交通網の整備をしてほしい。

田浦で $\int R$ と京急が交差する地点に乗り換えできる駅を新設して、電車の利便性を良くしてほしい。

横須賀市は北部から都市化、企業誘致などを進めて、北部から発展していった方がよいと思う。

交通に関して:市内に雇用がないので、横浜や川崎に通勤することになる。京急やJRに働きかけて久里浜始発の増便やJR逗子の連絡時間の短縮をお願いする。

他県から来た私たちにとっては、道や土地が狭く、坂道が多い横須賀は住みづらい。病院なども行きづらい。

交通網の整備 R16の40km/n→60km/n

交通機関が不便

同じようなお店ばかりでつまらないので、思いきってテラスモールのような建物があったらと思う。

市外からも来たくなるような大型のショッピングセンターを作るべき。

カレーでの街おこしは良かったが、市職員の知らぬところで、アニメやゲームの聖地になっている。そういう文化を盛り上げようとしている人々もいるが、市としても協力してほしい。海軍カレーに来る人の1/4くらいはゲーム絡みの人達たちだと思うが、京急がタイアップした作品などで同調しても全然ダメ。南図書館のキャラクターポスターの試みとか非常に良かった。個人がブログで訪問した旨書いて評価が高い。

[観光から発信] とりあえず横須賀に来てもらって、そこから住んでみたいと思わせるような発信をしていけばよい。とにかく外から人を招き入れないと人口は増えない。やはり藤沢方面はそれがうまくいっていると思う。

葉山のようにブランド力を活かしてベッドタウンとしての機能を果たすべきだ。

無料で遊べる大きな公園

コミュニティの場が少ない。

都市づくりではなく、まず「まちづくり」をお願いする。

- ・せっかく海・山があるが、もっと自然に近い公園等を作ってほしい。
- ・図書館を増やして。お年寄りが増えている。
- ・トルコでは、決まったバス停ではなく、ルートは決まっていて、手をあげて乗り込む、降りる時は"ここで降ります"と言って下りる小型のバスが走っている。日本の横須賀でこういうものを走らせたら注目されると思う。
- ・道や街並みをきれいに、ヴェルニー公園にもっと木を増やしてほしい。陽があたりすぎ。
- ・大きな都市づくりではなく、魅力あるまちづくりが、人が集まり、活性化につながっていくと思う。
- ・野毛山のような動物園(小さい)を作ってほしい。

(次頁に続く)

主な回答(自由記述) (n=52) つづき

グローバル化時代における横須賀文化都市の創造。生活の将来を見通した人々の価値 観。暮らしに立脚した議論を。まず広汎な市民レベルの議論から出発し、構築すべきだ ろう。それを踏まえた「横須賀は何でサバイバル発展を図るか」「横須賀らしさ」「横 須賀市民であることを誇れる町とは」の具体化を進めるべきだろう。

選択肢①~⑩は今の時代に当然のこと、できて当然。これ以外に、人が楽しめるまち、 人が住む以上は、各年代の楽しめるまちづくりが必要である。

どんな楽しみをしたいのか、各年代とよく話し、年代ごとの楽しみを知ること。楽しむ ことが抜けていないか?一部の年代が楽しんだところで前には進まないので。

人口を増やしたいのか?また25万人ぐらいで広々とした環境、地域を目指すのか?で、 方法は変わると思う。

個性のあるまちづくり。よそにない横須賀らしさを大切に。

全てがつながる3つ(選択肢)を用意してほしい。人々が活きるまちづくり。

三浦半島は海に囲まれた環境に恵まれた地だが、米軍や自衛隊を縮少しない限り、人口は増えない。

経済、防災、安全、教育・・・全てを含め、米軍、自衛隊基地との共存・共栄の道を歩むしかない。滞納がない軍、自衛隊の資金力を評価し、経済面でも充実を図る。

行動の伴う市政推進 → 実績

計画により、ビジョンは明確だが、「いつまでに何を」のロードマップが具体化されていないような印象を受ける。全てを実行できればよいが、優先順位をつけることが大事だと思う。

再挑戦ができるまちの推進

- 例えば①教育面。市立横須賀総合高校の全日制で、高校中退者も一定枠で受け入れる。 ②市内の主要会社の就職面。就職できなかった大学生、会社をやめてしまった若者も新 卒者と同等に採用しようとする会社に税制上の優遇措置を行う。
- ③信用保証。破産してしまった事業者に対して一定額の預け入れを条件に、時限的に信用を保証する。

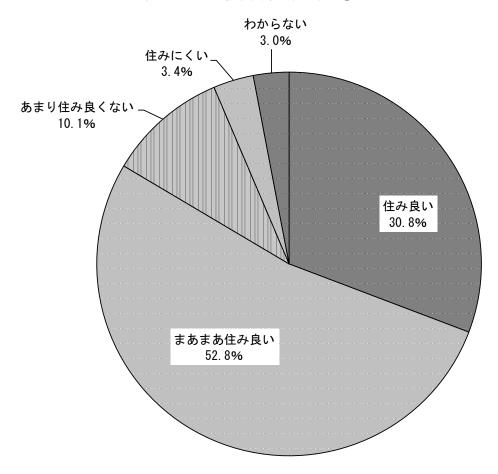
市財政の健全化への取り組み。市県民税、保険料等の高額化、使用の不透明性がある。

V 横須賀市の住み良さや定住意識について

1 横須賀市の住み良さについて 【平成26年度新規設問】

「住み良い」(30.8%)、「まあまあ住み良い」(52.8%) を合わせると、回答者の83.6% に上り、多くの回答者が住み良さを実感している状況がうかがえる。

(回答理由分類については P69 参照)



図表 V-1 「横須賀市の住み良さ」(n=705)

図表 V - 2 「横須賀市の住み良さ」(H27-26年度)

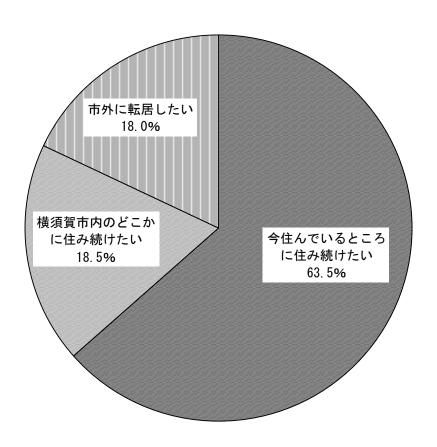
		(%)										
調査年度	件数(人)	①住み良い	②まあまあ 住み良い	③あまり住み よくない	④住みにくい	⑤わからない	1)+2	3+4				
27年度	705	30.8	52.8	10.1	3.4	3.0	83.6	13.5				
26年度	716	26.1	60.5	8.1	2.8	2.5	86.6	10.9				

2 横須賀市への定住意識について 【平成 26 年度新規設問】

(1) 横須賀市への定住意識

・「今住んでいるところに住み続けたい」(63.5%)、「横須賀市内のどこかに住み続けたい」(18.5%)を合わせると、回答者の82.0%に上り、定住意識の高さがうかがえる。 なお、前年度調査から全体的な回答傾向に変化はみられない。

図表 V-3 「横須賀市への定住意識」(n=701)

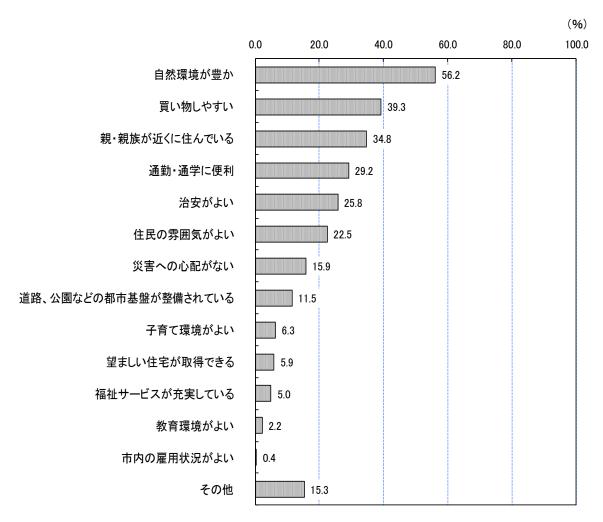


図表 V - 4 「横須賀市への定住意識」(H27-26 年度)

					(%)
調査年度	件数(人)	①今住んでいるところ に住み続けたい	②横須賀市内のどこかに住み続けたい	③市外に転居したい	1)+2)
27年度	701	63.5	18.5	18.0	82.0
26年度	712	63.1	20.8	16.2	83.9

(2) 市内に住み続けたい理由

- ※「①今住んでいるところに住み続けたい」「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」 を選択した回答者のみ
- ・「自然環境が豊か」(56.2%) が最も多く選択されており、次いで、「買い物しやすい」 (39.3%)、「親・親族が近くに住んでいる」(34.8%)、が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「自然環境が豊か」が最も多く選択されているが、2番目の項目としては「買い物しやすい」が最も多く選択されている。
- ・「買い物しやすい」は、1番目の項目としては4位となっているが、2・3番目の項目 として多く選択された状況となっている。
- ・一方、5位の「治安がよい」(25.8%) は、1番目の項目としては最も多い「自然環境が豊か」に次いで多く選択されているが、2・3番目の項目としては中央に位置し、それほど多くはない。



図表 V - 5 「市内に住み続けたい理由」(n=555)

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 V-6 「市内に住み続けたい理由」(選択順位別)

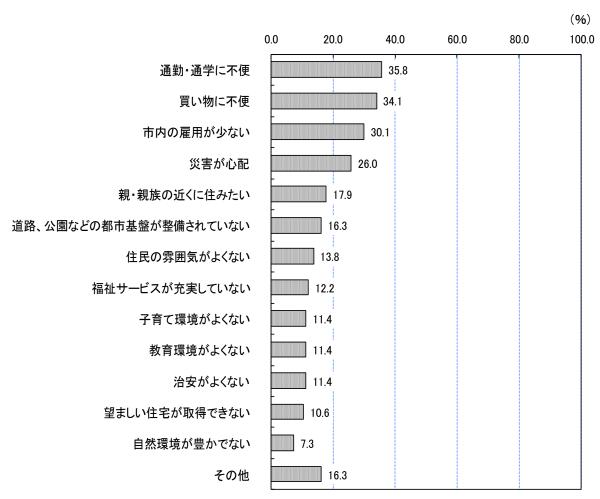
市内に住み続けたい理由	全	:体	1番目		2番目		3番目	
川内に住の続けたい连田	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
自然環境が豊か	312	56.2	160	28.8	94	18.7	58	13.1
買い物しやすい	218	39.3	49	8.8	103	20.5	66	14.9
親・親族が近くに住んでいる	193	34.8	74	13.3	48	9.5	71	16.1
通勤・通学に便利	162	29.2	44	7.9	74	14.7	44	10.0
治安がよい	143	25.8	77	13.9	34	6.8	32	7.2
住民の雰囲気がよい	125	22.5	20	3.6	41	8.2	64	14.5
災害への心配がない	88	15.9	35	6.3	35	7.0	18	4.1
道路、公園などの都市基盤が整備されている	64	11.5	14	2.5	28	5.6	22	5.0
子育て環境がよい	35	6.3	18	3.2	6	1.2	11	2.5
望ましい住宅が取得できる	33	5.9	6	1.1	17	3.4	10	2.3
福祉サービスが充実している	28	5.0	15	2.7	4	0.8	9	2.0
教育環境がよい	12	2.2	1	0.2	6	1.2	5	1.1
市内の雇用状況がよい	2	0.4	1	0.2	1	0.2	0	0.0
その他	85	15.3	41	7.4	12	2.4	32	7.2
回答数(n)			555	100.0	503	100.0	442	100.0

[※]回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数 (n) は異なる

[※]着色は選択順位別の上位3項目

(3)市外に転居したい理由

- ※「③市外に転居したい」(P64) を選択した回答者のみ
- ・「通勤・通学に不便」(35.8%) が最も多く選択されており、次いで、「買い物に不便」 (34.1%)、「市内の雇用が少ない」(30.1%) が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「通勤・通学に不便」が最も多く選択され、次いで「買い物に不便」「市内の雇用が少ない」が同じ回答割合で選択されている。
- ・2番目の項目としては、「市内の雇用が少ない」が最も多く選択され、次いで「通勤・ 通学に不便」「買い物に不便」が選択されている。なお、「通勤・通学に不便」は1~ 3番目全てにおいて上位3つまでで選択されている。



図表 V - 7 「市外に転居したい理由」(n=123)

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 V-8 「市外に転居したい理由」(選択順位別)

市外に転居したい理由	全	:体	1番目		2番目		3番目	
川がに転店したい埋田	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
通勤・通学に不便	44	35.8	19	15.4	14	13.5	11	12.8
買い物に不便	42	34.1	14	11.4	14	13.5	14	16.3
市内の雇用が少ない	37	30.1	14	11.4	17	16.3	6	7.0
災害が心配	32	26.0	11	8.9	11	10.6	10	11.6
親・親族の近くに住みたい	22	17.9	11	8.9	5	4.8	6	7.0
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	20	16.3	6	4.9	10	9.6	4	4.7
住民の雰囲気がよくない	17	13.8	2	1.6	4	3.8	11	12.8
福祉サービスが充実していない	15	12.2	9	7.3	3	2.9	3	3.5
子育て環境がよくない	14	11.4	9	7.3	4	3.8	1	1.2
教育環境がよくない	14	11.4	5	4.1	7	6.7	2	2.3
治安がよくない	14	11.4	6	4.9	3	2.9	5	5.8
望ましい住宅が取得できない	13	10.6	2	1.6	5	4.8	6	7.0
自然環境が豊かでない	9	7.3	5	4.1	1	1.0	3	3.5
その他	20	16.3	10	8.1	6	5.8	4	4.7
回答数(n)			123	100.0	104	100.0	86	100.0

[※]回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

[※]着色は選択順位別の上位3項目

3 回答理由分類(横須賀市の住み良さ)

「①住み良い」「②まあまあ住み良い」

「①住み良い」「②まあまあ住み良い」 回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然環境が豊か、気候が温暖、空気がよい	166	29. 1
交通の便がよい、都市部に近い	83	14. 5
地元、長年住んでいる、住み慣れている、他を知らないので比較ができない	69	12.1
住環境がよい、雑然としていない、まちが落ち着いている、住みやすい	33	5.8
生活利便性が高い、不便を感じない、生活に必要な施設等に近い	28	4.9
商業施設の充実、買い物しやすい (近さを含む)	22	3.9
静か、うるさくない	17	3.0
災害が少ない	14	2.5
住民の雰囲気がよい、市民性	12	2.1
のんびりできる、ゆったりしている、のどか、落ち着く	11	1.9
都会と田舎の両面性、自然とまちの融合	9	1.6
農水産物が豊か	9	1.6
治安がよい	8	1.4
駅に近い	7	1.2
物価が安い、家賃が安い	7	1.2
公園が多い	5	0.9
公共施設が利用しやすい (近さを含む)	4	0.7
勤務先に近い、仕事がある	4	0.7
適度な規模、適度な発展	4	0.7
(自然など) 子育てするのに環境がよい、子どもに色々な経験をさせられる	3	0.5
レジャーが楽しめる、遊ぶところがある	3	0.5
医療機関が利用しやすい (近さを含む)	2	0.4
道路が整備されている	2	0.4
その他、意見等	13	2.3
公共交通の利便性が低い、都市部に遠い、通勤に不便	14	2.5
山・坂が多く生活が不便、車がないと不便、渋滞	5	0.9
買い物に不便、大型商業施設がない	4	0.7
駅から遠い	2	0.4
福祉・医療体制が不十分	2	0.4
高齢になった時が不安	2	0.4
治安が悪い	2	0.4
その他の否定的な回答理由	5	0.9
	571	100.0

「③あまり住み良くない」「④住みにくい」

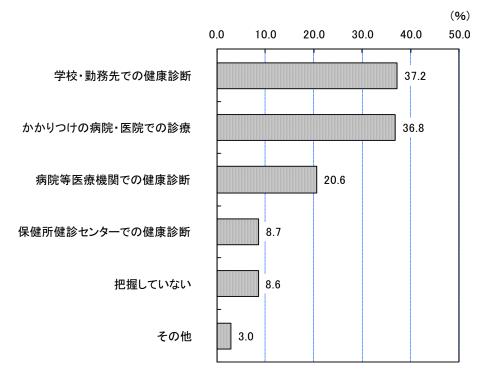
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
交通の便が悪い、公共交通の利便性が低い、都市部まで遠い、車がないと不便	21	18.6
山・坂が多い、道路整備不足、道が狭い、高速道路料金が高い、渋滞	21	18.6
生活に不便、住みにくい	12	10.6
商業施設が少ない、商店街の衰退、買い物に不便	11	9. 7
税金・公共料金が高い、物価が高い、お金がかかる(市民の優遇がない)	8	7. 1
住民の調和がない(排他的)、人間関係が希薄	4	3. 5
子どもを産みにくい、育てにくい	4	3. 5
福祉・医療体制が不十分	3	2. 7
教育環境がよくない	3	2. 7
閉鎖的	3	2. 7
高齢者施策が不十分	2	1.8
自然の減少、環境破壊	2	1.8
企業が少ない、産業がない	2	1.8
行政サービスがよくない	2	1.8
活気がない、寂れている	2	1.8
その他、意見等	13	11. 5
	113	100.0

VI 健康づくりについて

少子高齢化が進む中、多くの市民がいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「**生涯現役社会の実現**」を目指すに当たり、自身の健康づくりに対する状況を尋ねた。

1 健康状態の把握手段について 【平成 26 年度新規設問】

「学校・勤務先での健康診断」「かかりつけの病院・医院での診療」が同程度の回答割合で最も多い。その他の健康診断(病院等医療機関と保健所健診センター)の利用者は合わせて約30%となった。健康状態を把握していない回答者は約8%となった。



図表VI-1 「健康状態の把握手段」(n=699)

※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は100%にならない

								(%)
調査年度	件数(人)	①学校・勤務先での 健康診断	②病院等医療機関 での健康診断	③保健所健診セン ターでの健康診断	④かかりつけの病 院・医院での診療	⑤把握していない	⑥その他	2+3
27年度	699	37.2	20.6	8.7	36.8	8.6	3.0	29.3
26年度	714	30.7	19.0	5.3	30.4	9.1	5.5	24.3

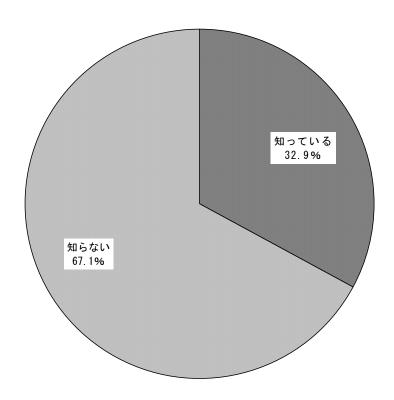
図表VI-2 「健康状態の把握手段」(H27-26年度)

[※]平成26年度は複数選択可としていないため、単純な比較はできない

2 ラジオ体操の実施の認知度について 【新規設問】

市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操を実施していることを「知っている」回答者は約30%となった。

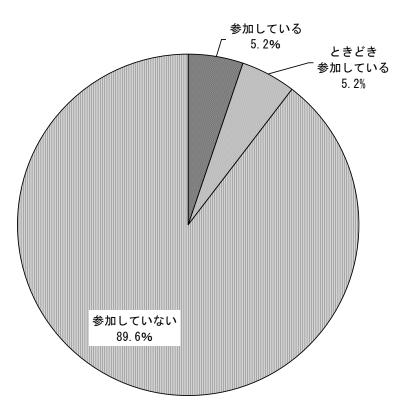
図表VI-3 「ラジオ体操の実施の認知度」(n=700)



3 ラジオ体操への参加について 【新規設問】

※ラジオ体操が行われていることについて「①知っている」を選択した回答者のみ

ラジオ体操に「参加している」(5.2%)、「ときどき参加している」(5.2%) を合わせると約 10%となった。(「ラジオ体操が行われていることについて」の回答者 700 人のうち約 3.5%)



図表VI-4 「ラジオ体操への参加状況」(n=230)

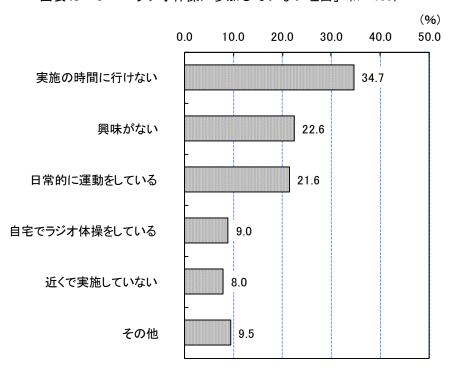
4 ラジオ体操に参加していない理由について 【新規設問】

※ラジオ体操への参加について「③参加していない」を選択した回答者のみ

「実施の時間に行けない」が 34.7%と最も多く、参加の意向がないわけではないがラジオ体操が行われている時間に参加することが難しい状況がうかがえる。一方、「興味がない」回答者も 20%を超える結果となった。

また、「日常的に運動をしている」(21.6%)、「自宅でラジオ体操をしている」(9.0%) 回答者を合わせると 30%を超え、体を動かしている回答者も少なくない。

(参考)「その他」として、年代が合わない、勤務先で実施している、高齢、外出が億劫、 体調理由などが挙げられている。



図表VI-5 「ラジオ体操に参加していない理由」(n=199)

※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は100%にならない

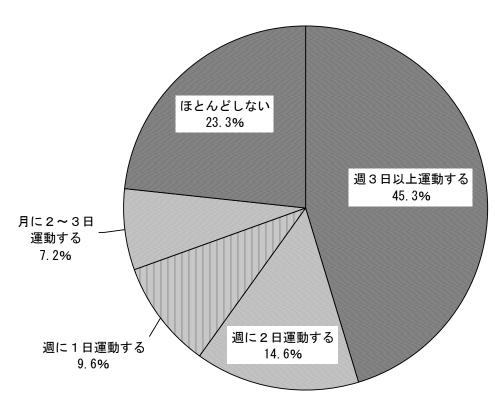
5 習慣的な運動の実施状況について 【平成 26 年度新規設問】

1日30分以上の運動を「週3日以上」している人(45.3%)が最も多い。また、週に 1日以上運動している人(①~③)を合わせると、回答者の約7割に上る(69.5%)。

一方、1日30分以上の運動を「ほとんどしない」人も、23.3%と2番目に多い状況となっている。この回答傾向は前年度と同様である。

※30 分以上の運動

- ・1日の合計で30分以上(例:10分を3回なども含む)
- ・運動にはウオーキングや自転車での走行等を含む



図表VI-6 「習慣的な運動の実施状況」(n=678)

図表VI-7 「習慣的な運動の実施状況」(H27-26 年度)

							(%)
調査年度	件数(人)	①週3日以上	②週2日	③週1日	④月2~3日	⑤ほとんどしない	1)+2+3
27年度	678	45.3	14.6	9.6	7.2	23.3	69.5
26年度	713	44.3	17.3	10.2	5.3	22.9	71.8

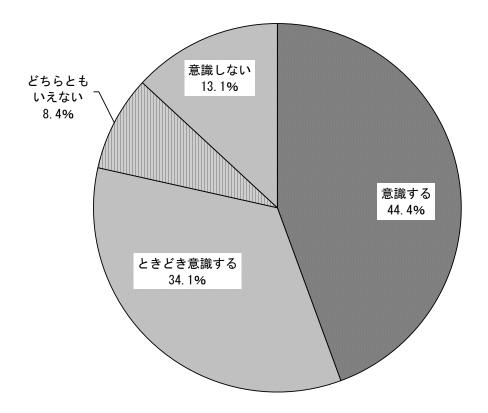
_	76	_
---	----	---

VII 地産地消について

地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指す中、地産地消に対する意識について尋ねた。

1 **農水産物の産地に対する意識について** 【平成 26 年度新規設問】

産地を「意識する」(44.4%)、「ときどき意識する」(34.1%)を合わせると、回答者の約8割に上り、意識の高さがうかがえる。この回答傾向は前年度と同様である。



図表Ⅷ-1 「農水産物の産地に対する意識」(n=701)

図表VII-2 「農水産物の産地に対する意識」(H27-26年度)

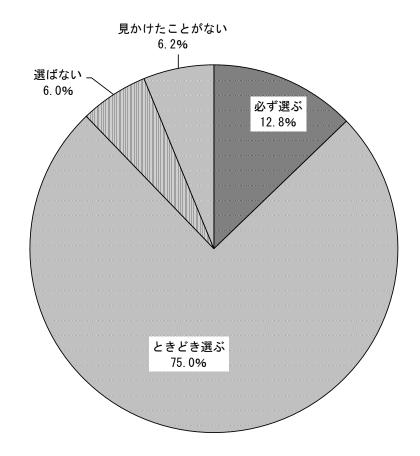
						(%)
調査年度	件数(人)	①意識する	②ときどき意識 する	③どちらともいえ ない	④意識しない	1)+2
27年度	701	44.4	34.1	8.4	13.1	78.5
26年度	702	43.0	34.2	8.1	14.7	77.2

2 横須賀市産の農水産物の選択について 【平成 26 年度新規設問】

※農水産物の産地について「①意識する」「②ときどき意識する」を選択した回答者のみ

横須賀市産の農水産物を「必ず選ぶ」(12.8%)、「ときどき選ぶ」(75.0%) を合わせると、回答者の 85%を超えている。(「農水産物の産地に対する意識について」の回答者 701 人の約 70%)

一方、農水産物の産地を意識している人(本設問回答者)の中でも、横須賀市産の農水産物を「見かけたことがない」人も 6.2%いる。



図表VII-3 「横須賀市産の農水産物の選択」(n=548)

図表VII-4 「横須賀市産の農水産物の選択」(H27-26 年度)

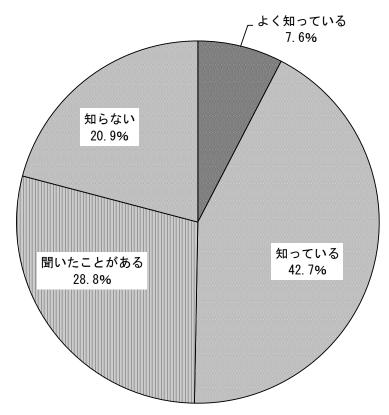
						(%)
調査年度	件数(人)	①必ず選ぶ	②ときどき選ぶ	③選ばない	④見かけたことが ない	1)+2
27年度	548	12.8	75.0	6.0	6.2	87.8
26年度	540	10.2	76.5	5.2	8.1	86.7

VIII 横須賀製鉄所(造船所)について

今年度、横須賀製鉄所(造船所)が開設 150 周年を迎えるに当たり、横須賀製鉄所に対する認知度を把握するため、横須賀製鉄所やゆかりの人物などについてどの程度知っているかを尋ねた。

1 横須賀製鉄所の認知度について 【平成26年度新規設問】

横須賀製鉄所を「知っている」と回答した人が最も多く(42.7%)、次いで、「聞いたことがある」と回答した人が多い(28.8%)。一方、約2割の回答者が横須賀製鉄所を知らない状況である(20.9%)。この回答傾向は前年度と同様である。



図表WI-1 「横須賀製鉄所の認知度」(n=694)

図表MI-2 「横須賀製鉄所の認知度」(H27-26年度)

					(%)
調査年度	件数(人)	件数(人) ①よく知っている		③聞いたことが ある	④知らない
27年度	694	7.6	42.7	28.8	20.9
26年度	693	8.1	41.0	28.7	22.2

2 **横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度について** 【平成 26 年度新規設問】

- ※横須賀製鉄所ゆかりの人物
 - ・フランソワ・レオンス・ヴェルニー (横須賀製鉄所首長)
 - ・小栗上野介忠順(横須賀製鉄所建設を推進した幕臣)

「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知っている」と回答した人が最も多い(42.7%)。 一方、「ヴェルニー・小栗上野介忠順いずれも知らない」と回答した人も31.0%いる。 なお、小栗上野介忠順よりヴェルニーの方が、認知度は高い結果となっている。

いずれも知らない 31.0% ヴェルニー・ 小栗上野介忠順 いずれも知っている 42.7%

図表MI-3 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(n=693)

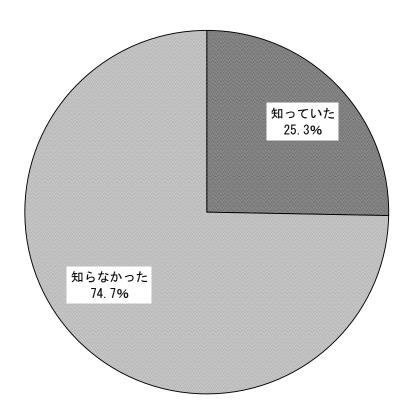
図表WI-4 「横須賀製鉄所ゆかりの人物の認知度」(H27-26 年度)

					(%)
調査年度	件数(人)	①ヴェルニー・ 小栗上野介忠順 いずれも知っている	②ヴェルニーのみ 知っている	③小栗上野介忠順 のみ知っている	④いずれも知らない
27年度	693	42.7	17.6	8.7	31.0
26年度	688	43.3	15.0	10.0	31.7

3 富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度について 【新規設問】

世界遺産となった富岡製糸場(群馬県)が横須賀製鉄所をモデルに設計され、その技術が導入されていたことを「知っていた」と回答した人は25.3%となった。

図表WI-5 「富岡製糸場と横須賀製鉄所の関係の認知度」(n=703)





基本的な属性(F1~F6)

(1)性別(F1)

項目	件数(人)		構成比(%)	増減		
	计数(八)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比
全体	718	100.0	100.0	100.0		
男性	293	40.8	43.4	41.0	▲ 2.6	2.4
女性	410	57.1	55.1	56.4	2.0	▲ 1.3
無回答	15	2.1	1.5	2.6	0.6	▲ 1.1

(2)年齢(F2)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
坝 日	计数(人)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比
全体	718	100	100	100.0		
15~19歳	25	3.5	2.7	2.5	0.8	0.2
20~29歳	57	7.9	8.8	8.1	▲ 0.9	0.7
30~39歳	83	11.6	12.7	12.0	▲ 1.1	0.7
40~49歳	108	15.0	16.7	13.5	▲ 1.7	3.2
50~59歳	125	17.4	14.8	18.6	2.6	▲ 3.8
60~69歳	157	21.9	22.2	23.0	▲ 0.3	▲ 0.8
70歳以上	147	20.5	20.5	19.8	0.0	0.7
無回答	16	2.2	1.6	2.6	0.6	▲ 1.0

(3)居住地域(F3)

福口	JH 米h / 【 】	構成比(%)			増減	
項目	件数(人)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比
全体	718	100.0	100.0	100.0		
本庁地域	100	13.9	14.1	13.5	▲ 0.2	0.6
追浜地域	54	7.5	8.6	7.1	▲ 1.1	1.5
田浦地域	30	4.2	5.3	4.1	▲ 1.1	1.2
逸見地域	18	2.5	1.8	2.2	0.7	▲ 0.4
衣笠地域	98	13.6	14.0	14.2	▲ 0.4	▲ 0.2
大津地域	76	10.6	10.4	10.5	0.2	▲ 0.1
浦賀地域	76	10.6	11.5	12.6	▲ 0.9	▲ 1.1
久里浜地域	110	15.3	13.1	13.0	2.2	0.1
北下浦地域	69	9.6	8.3	8.9	1.3	▲ 0.6
西地域	72	10.0	10.9	11.3	▲ 0.9	▲ 0.4
無回答	14	2.1	1.9	2.6	0.2	▲ 0.7

(4)職業(F4)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減		
	计数(人)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比	
全体	718	100.0	100.0	100.0			
農林漁業	2	0.3	0.4	0.3	▲ 0.1	0.1	
自営(商店・工務店・工場等)	21	2.9	2.1	1.4	0.8	0.7	
自営(サービス業)	17	2.4	2.5	2.0	▲ 0.1	0.5	
会社員·公務員	122	17.0	14.4	16.1	2.6	▲ 1.7	
(事務職・専門職・管理職)	122	17.0	14.4	10.1	2.0	A 1.7	
会社員・公務員(販売/サービス)	56	7.8	8.2	11.2	▲ 0.4	▲ 3.0	
会社員·公務員 (保安·運輸/通信·建設/労務)	31	4.3	5.1	4.4	▲ 0.8	0.7	
自由業	6	0.8	0.8	0.5	0.0	0.3	
家事専業	119	16.6	17.2	16.4	▲ 0.6	0.8	
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	137	19.1	15.2	16.4	3.9	▲ 1.2	
学生	34	4.7	4.0	2.6	0.7	1.4	
無職	139	19.4	25.0	23.4	▲ 5.6	1.6	
その他	18	2.5	3.6	2.9	▲ 1.1	0.7	
無回答	16	2.2	1.6	2.5	0.6	▲ 0.9	

(5)世帯の状況(F5)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
块口	计数(人)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比
全体	742	100.0	100.0	100.0		/
単身世帯(一人暮らし)	119	16.0	15.4	14.0	0.6	1.4
夫婦のみ	205	27.6	29.9		▲ 2.3	29.9
小学生未満の子どもがいる	45	6.1	6.1	6.0	0.0	0.1
小学生~中学生の子どもがいる	70	9.4	10.2	9.4	▲ 0.8	0.8
65歳以上の高齢者がいる	126	17.0	17.1	39.4	▲ 0.1	▲ 22.3
該当なし	162	21.8	19.6	28.7	2.2	▲ 9.1
無回答	15	2.0	1.6	2.5	0.4	▲ 0.9

※複数回答

(6)居住年数(F6)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
块口	计数(人)	27年度	26年度	25年度	27-26年度比	26-25年度比
全 体	718	100.0	100.0	100.0		
1年未満	8	1.1	0.7	0.4	0.4	0.3
1~3年	30	4.2	4.0	2.9	0.2	1.1
4~9年	44	6.1	6.3	6.0	▲ 0.2	0.3
10~14年	45	6.3	6.2	5.9	0.1	0.3
15~19年	50	7.0	7.1	8.1	▲ 0.1	▲ 1.0
20~24年	56	7.8	8.1	8.7	▲ 0.3	▲ 0.6
25年以上	469	65.3	66.2	65.4	▲ 0.9	0.8
無回答	16	2.2	1.5	2.6	0.7	▲ 1.1



基本計画重点プログラム 市民アンケート

質問·回答用紙

- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
- ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒(切手不要)に封入し、 平成27年5月11日(月)までにご投函ください。
- ◇ 本調査結果は、市ホームページなどで公表しますが、「アンケート調査結果報告書」の送付を希望される場合は、返信用封筒の裏面に住所・氏名を記載してください。(封筒はアンケート集計には利用しません)

重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ~子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成~

横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。

<u>現在について</u>、選択肢 1 - (1)から、<u>以前(4~5年前)との比較において</u>、

問1

選択肢 1・(2)から選んで回答欄に記入してください。また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について 回答欄 理由
選択肢 1 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較においての答欄 理由
選択肢 1 - (2)
問2 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。 現在について、選択肢 2 - (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において、</u> 選択肢 2 - (2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について回答欄里由
選択肢 2 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較 口答欄 理由
選択肢 2 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

問3

~誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり~

「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。 <u>現在について</u> 、選択肢3 - (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢3 - (2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について回答欄 理由
選択肢3 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較
選択肢3 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない
問4 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。 現在について、選択肢4 - (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢4 - (2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について回答欄里由
選択肢4 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較
選択肢4 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない

横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる

④ どちらかというと悪くなっている⑤ 悪くなっている⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

問5

~人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり~

横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。

<u>現在について</u> 、選択肢5‐(1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢5‐(2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について 回答欄 理由
選択肢5 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較においての答欄 理由
選択肢5 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない
問6 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。 現在について、選択肢6 - (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢6 - (2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について 回答欄 理由
選択肢6 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較において回答欄理由
選択肢6 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

問7

~地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり~

横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いま

すか。 <u>現在について</u> 、選択肢7‐(1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢7‐(2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について 回答欄 理由
選択肢7 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較において 回答欄 理由
選択肢7 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない
問8 横須賀市は、「 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり 」が進められているまちだと思いますか。 <u>現在について</u> 、選択肢8‐(1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 選択肢8‐(2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。
現在について回答欄里由
選択肢8 - (1) ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない ⑥ わからない
以前との比較において
選択肢8 - (2) ① よくなっている ② どちらかというとよくなっている ③ 変わっていない ④ どちらかというと悪くなっている ⑤ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

~地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティー機能の強化~

同り	るまちだと <u>現在につい</u> 選択肢9・	思いま <u>で、</u> 選: (2)から	すか。 択肢 9 。選 <i>ん</i> で	民の主体性が発揮される枠組みつくり」 か進められてい)- (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、 で回答欄に記入してください。 『に記入してください。
現在につい	て回答欄		理由	
		かや思う	3	どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
以前との比 において	回答欄		理由	
_	くなっている	_	_	5らかというとよくなっている ③ 変わっていない Nる ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない
問 10	と思います 現在につい 選択肢 10 また、その	か。 <u>1て、選</u> - (2)か)理由を:	択肢 1 ら選ん 理由欄	えるコミュニティー*機能の強化」が図られているまちだIO - (1)から、 <u>以前(4~5年前)との比較において</u> 、して回答欄に記入してください。 間に記入してください。 間に記入してください。 域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり
現在につい	て 回答欄		理由	
		や思う	3	どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
以前との比! において	回答欄		理由	
_	:くなっている	_		らかというとよくなっている ③ 変わっていない る ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

『持続可能な発展を遂げる都市力』について

今日、多くの自治体がそうであるように、横須賀市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面しています。

これまでの設問では、この厳しい状況下で着実に成長できるための土台づくり、また、 全政策・施策の先導役として基本計画に位置付けた「5つの重点プログラム」に関して、 皆さまの実感をお伺いしてきました。

間 11 重点プログラムに関する設問の最後にお伺いします。

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、**着実に成長できるための「都市力(都市の魅力)」を備えているまち**だと思いますか。 現在について、選択肢 11 - (1)から、<u>以前(4~5年前)との比較において</u>、 選択肢 11 - (2)から選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について回答欄	理印	±		
選択肢 11 - (1) ① 思う ② ⑥ わからない	やや思う	③ どちらともいえない	④ あまり思わない	⑤ 思わない
以前との比較 口答欄	理印	±		
選択肢 11 - (2) ① よくなってい ④ どちらかとい	Nる ② (Nうと悪くなっ ⁻	どちらかというとよくな ている ⑤ 悪くな	- 1. 0 0 21	っていない らない

間12 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。次の選択肢から<u>優先すべきと思う順に3つまで</u>選んでその番号を回答欄に記入してください。

なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 人間性豊かな子どもの育成
- ③ 誰もが活躍できるまちづくり
- ④ 安全で安心なまちづくり
- ⑤ 人と自然が共生するまちづくり
- ⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
- ⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
- ⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
- ⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
- ⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
- ⑪ その他(具体的にお書きください)

回答欄

1番目	2番目	3番目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

『横須賀市の住み良さや定住意識』について

『横須賀市の住み良さや定住意識』についてお伺いします。

間13 あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。 選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。 また、その理由を理由欄に記入してください。

回答欄	理由	
-----	----	--

選択肢

- ① 住み良い
- ② まあまあ住み良い ③ あまり住み良くない
- ④ 住みにくい

- わからない
- 間14 あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。 選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

回答欄	
-----	--

選択肢

- ① 今住んでいるところに住み続けたい ② 横須賀市内のどこかに住み続けたい

- ③ 市外に転居したい
- ※選択肢①②を選んだ方は、問 15 へ進んでください。 選択肢③を選んだ方は、10ページの問16へ進んでください。

問 15 【問 14 で①または②を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。 次の選択肢から<u>順に3つまで</u>選んで回答欄に記入してください。 また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよい
- ② 教育環境がよい
- ③ 福祉サービスが充実している
- ④ 治安がよい
- ⑤ 災害への心配がない
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されている
- ⑦ 自然環境が豊か
- ⑧ 市内の雇用状況がよい
- 9 買い物しやすい
- ⑩ 通勤・通学に便利
- ① 望ましい住宅が取得できる
- ② 住民の雰囲気がよい
- 13 親・親族が近くに住んでいる
- (4) その他

回答欄【問14で①または②を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

問 16 【問 14 で③を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。 次の選択肢から<u>順に3つまで</u>選んで回答欄に記入してください。 また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境がよくない
- ② 教育環境がよくない
- ③ 福祉サービスが充実していない
- ④ 治安がよくない
- ⑤ 災害が心配
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されていない
- ⑦ 自然環境が豊かでない
- ⑧ 市内の雇用が少ない
- ⑨ 買い物に不便
- ⑩ 通勤・通学に不便
- ① 望ましい住宅が取得できない
- ② 住民の雰囲気がよくない
- 13 親・親族の近くに住みたい
- (4) その他

回答欄【問14で③を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

あなたの健康づくりについて

少子高齢化が進む中、横須賀市では、市民の皆さまがいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指しています。自身の健康管理に関心を持つことや、健康の維持、増進、改善などの行動が広がるように、環境を整えていきます。

そこで、皆さまの健康づくりについてお伺いします。

問17 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。 選択肢から選んで回答欄に記入してください。【複数回答可】 なお、⑥その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

回答欄		「⑥その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
-----	--	--------------------------

選択肢

- ① 学校・勤務先での健康診断
- ③ 保健所健診センターでの健康診断
- ⑤ 把握していない

- ② 病院等医療機関での健康診断
- 4 かかりつけの病院・医院での診療
- ⑥ その他(具体的にお書き下さい)
- 問18 市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操をしていることを 知っていますか。(学校の夏休み期間中のみ実施されているものを除く) 選択肢から選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 知っている ② 知らない
 - ※選択肢①を選んだ方は、問 19 へ進んでください。 選択肢②を選んだ方は、問 21 へ進んでください。

問 19	あなたは	で①を選んだが 、そのラジオ ら選んで回答	体操に参加し	ていますか。		
	回答欄					
選択肢 ① 参	参加している	3 ② ときど	き参加している	3 参加し	ていない	
*		<u>②を選んだ方</u> を選んだ方は				
問 20	それはな 選択肢か 【複数回	答可】	考えに近いも	のを選んで回	回答欄に記入して< を記入してください	
	回答欄		「⑥その他」	を選んだ方は、具体	めな理由をお書き下さい	
	実施の時間に 3常的に運動		② 近くで実施(③ 興味がない		》 自宅でラジオ体操 。 その他(具体的にる	
問 21	くらいし選択肢か	、30 分以上 [※] ていますか。 ら選んで回答 (上:1日の合計	欄に記入して	ください。	自転車での走行等: 回なども含む)	を含む)をどれ
	回答欄		COOJAL			
選択肢 ① 』	園3日以上	② 週2日	③ 週1日	④ 月2~3	3日 ⑤ ほとんど	しない

地産地消について

横須賀市では、地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指しています。よこすかポートマーケット、すかなごっそをはじめとする「よこすか地産地消ショップ[※]」を、積極的にPRしています。

そこで、皆さまの地産地消に対する意識についてお伺いします。

- ※「よこすか地産地消ショップ」では、地場産農水産物を常に取り扱っています。200 店以上の 飲食店・販売店が登録しています。
- 問 22 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、 農水産物(食材)の産地を意識しますか。 選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 意識する ② ときどき意識する ③ どちらともいえない ④ 意識しない
- ※選択肢①②を選んだ方は、問 23 へ進んでください。 選択肢③④を選んだ方は、問 24 へ進んでください。
- **間 23** 【問 22 で①または②を選んだ方に伺います。】

あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、 横須賀市産の農水産物(食材)を選びますか。 選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

① 必ず選ぶ ② ときどき選ぶ ③ 選ばない ④ 見かけたことがない

横須賀製鉄所(造船所)について

「横須賀製鉄所」(のちの造船所)は、江戸時代末期の 1865年、江戸幕府の幕臣であ る小栗上野介忠順(おぐりこうずけのすけただまさ)らの進言により、フランスの技術 者ヴェルニーを招いて建設されました。「横須賀製鉄所」で使用されていた国指定重要 文化財「スチームハンマー」は、ヴェルニー記念館に展示されています。

世界遺産となった富岡製糸場(群馬県)は、「横須賀製鉄所」をモデルに設計され、 製鉄所の技術が導入されています。また、当時のフランス人技師たちにより、メートル 法、複式簿記などが日本で初めて製鉄所で用いられました。

このように、日本の近代工業技術の礎を築き、横須賀の都市としての発展の大きな推 進力となった「横須賀製鉄所」は、今年、開設から 150 年の節目を迎えました。

そこで、横須賀製鉄所(造船所)に関してお伺いします。

間 24 あなたは、横須賀製鉄所(造船所)について知っていますか。 選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄	

選択肢

- ① よく知っている
- ② 知っている ③ 聞いたことがある
- 4) 知らない
- **間 25** あなたは、横須賀製鉄所(造船所)にゆかりのある次のA、Bの人物について 知っていますか。

選択肢から選んで回答欄に記入してください。

- フランソワ・レオンス・ヴェルニー (横須賀製鉄所首長) Α
- 小栗上野介忠順(横須賀製鉄所建設を推進した幕臣)

回答欄	

選択肢

- ① 2人とも知っている
- ② Aのみ知っている ③ Bのみ知っている

④ 2人とも知らない

問 26	あなたは、世界遺産となった富岡製糸場(群馬県)が横須賀製鉄所(造船所)を モデルに設計され、その技術が導入されていたことを知っていましたか。 選択肢から選んで回答欄に記入してください。	Ξ

選択肢

① 知っていた ② 知らなかった

あなた自身のことについてお伺いします

※<u>記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。</u> 分析に必要なデータですので、全員の方がお答えください。

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1	<性別> ① 男性 ② 女性				回答欄
F 2	⑤ 35~39歳 ⑥	40~44 歳	3 25~297 45~491 65~69	_	
F 3	⑤ 衣笠地域 ⑥	追浜地域	a域別一覧表が ③ 田浦地域 ⑦ 浦賀地域	④ 逸見地域	<u>ごさい。</u>) 回答欄
	<職業> ① 農林漁業 ③ 自営(サービス業) ⑤ 会社員・公務員(販 ⑦ 自由業 ⑨ アルバイト・パート ⑪ 無職		④ 3 ⑥ 3 ⑧ 1 配社員 10 5	自営(商店・工務店・ 会社員・公務員 (事務職 会社員・公務員 (保安・運 家事専業 学生 その他	・専門職・管理職)
()	<世帯の状況(同居) ① 単身世帯(一人暮ら ③ 世帯に小学生未満の ⑤ 世帯に 65 歳以上の	し) 子どもがいる	② 夫婦のみ④ 世帯に小	の世帯 学生~中学生の子ども	5がいる
(<横須賀市に住んでし ① 1年未満 ② 15~19年	Nる年数> ② 1~3年 ⑥ 20~24		③ 4~9年 ⑦ 25年以上	④ 10~14年

ご協力ありがとうございました。

地域別一覧表

(町名)

稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、 佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、 日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、 緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町

浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、 鷹取、夏島町、浜見台

田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、 船越町、港が丘

安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町

阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、 小矢部、平作、森崎

池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸

浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、 二葉、南浦賀、吉井

岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、 佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台

粟田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘

秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、 須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台 (地域別)

①本庁地域

<u>②追浜地域</u>

<u>③田浦地域</u>

<u>④逸見地域</u>

⑤衣笠地域

⑥大津地域

⑦浦賀地域

8久里浜地域

9北下浦地域

基本計画重点プログラム市民アンケート報告書

発行年月:平成27年(2015年)9月

編集·発行:横須賀市政策推進部政策推進課(都市政策研究所)

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

電話:046-822-8258 FAX:046-822-9285